

日本におけるジョージ・エリオットの文献（2000年1月～2021年7月）

(1)翻訳関係				
発行年月日	著者名	タイトル	雑誌・学会誌名	発行所、頁等
2001.03.30 (平成13年)	高野秀夫	G. エリオット詩集(4)— スペインのジプシー—	英文学	第30号、駒澤短期大學英文科、pp. 83-90.
2002.03.30 (平成14年)	高野秀夫	G. エリオット詩集(5)— スペインのジプシー—	英文学	第31号、駒澤短期大學英文科、pp. 27-38.
2002.03.31	富田成子	ジョージ・エリオット作「リーザの恋」〔含解説〕	甲子園大学紀要 (B) 経営情報学部編	第29号、甲子園大学、pp. 147-62.
2003.03.31 (平成15年)	富田成子	ジョージ・エリオット作「リーザの恋」	甲子園大学紀要 (B) 経営情報学部編	第30号、甲子園大学、pp. 123-36.
2003.12.10	藤井元子	『ミドルマーチ（上）：地方生活の一研究』		発行者 上田昭男、596 pp. ; 巻末に「年譜—ジョージ・エリオット」(p. 596)付き
2004.03.30 (平成16年)	藤井元子	『ミドルマーチ（中）：地方生活の一研究』		発行者 上田昭男、568 pp. ; 巻末に「年譜—ジョージ・エリオット」(p. 568)付き
2004.05.31	藤井元子	『ミドルマーチ（下）：地方生活の一研究』		発行者 上田昭男、369 pp. ; 松本三枝子、「解説：ジョージ・エリオットと『ミドルマーチ』」(pp. 351-60)、黒川泰男、「藤井元子先生を想う」(pp. 361-65)、「あとがき」(pp. 366-67)、「年譜—ジョージ・エリオット」(p. 369)
2006.01.20 (平成18年)	ジョージ・エリオット	兄ジェイコブ	松蔭大学紀要	阿部美恵、松蔭大学、pp. 127-36; <i>Brother Jacob</i> の第一部の翻訳
2006.03.15	三馬志伸	ジョージ・エリオット作「剥がれたペール」翻訳の試み	論叢	第四十六号、玉川大学文学部、pp. 136-89.
2008.03.30 (平成20年)	高野秀夫	G. エリオット詩集(6)— スペインのジプシー—	外国語論集	第4号、駒澤大學総合教育研究部外国語第1・第2部門、pp. 19-40.
2009.12.20 (平成21年)	樋口陽子	『エドワード・ネヴィル』マリアン・エヴァンズ（ジョージ・エリオット）	国際文化学部論集	第10巻第2・3号、鹿児島国際大学国際文化学部、pp. 65-99.

2010.02.28 (平成22年)	川本静子、 原公章	評論：「女流作家の愚劣な小説」、「ドイツ民族の自然史」、「福音主義の教えーカミング博士」、「フランスの女性ーマダム・ド・サブレ」、「ドイツ的ウィットーハインリッヒ・ハイネ」、「フィーリクス・ホルトによる労働者への演説」 書評：「『ヴィルヘルム・マイスター』の道徳性」、「『西へ向かって、ホーイ!』」、「マーガレット・フラーとメアリ・ウルストンクラフト」、「トマス・カーライル」、「『アンティゴネー』とその教訓」、「三つの小説」、「ジョン・ラスキン『近代画家論』第三巻」	ジョージ・エリオット 評論と書評	彩流社、467 pp. + 「あとがき」(pp. 469-79)
2011.07.20 (平成23年)	樋口陽子編 訳、樋口恒 晴訳	「第一部『エドワード・ネヴィル』/マリアン・エヴァンズ著 ジュリエット・マクマスター他編：「はしがき」、「本文についての覚書」、「『エドワード・ネヴィル』」、「注解」、「解説」、「史的事実についての後記」、「引用文献および参考文献」；「第二部『エドワード・ネヴィル』をめぐって」：「第一章『エドワード・ネヴィル』について—— 一 作者/二 未完の歴史ロマンス/三 ジュヴェニア出版」、「第二章 主人公ヘンリー・マーテン—— 一 親族/二 ヘンリー・マーテンと清教徒革命」、「第三章 ゆかりの地を訪ねて—— 一 チェpstou教区教会とチェpstou博物館/二 チェpstou城とティンタン修道院/三 ピアスフィールド/四 ハンティンドン博物館/五 ケンブリッジ大学シドニー・サセックス・コレジ」、「参考書目」、「あとがき」、「年表」	エドワード・ネヴィル： G・エリオットの少女期作 品とその時代背景	彩流社、153+xiii pp.
2011.12.20	富田成子 (訳)、海 老根宏(解 説)	「急進主義者フィーリクス・ホルト」、「解説」、「訳者あとがき」	急進主義者フィーリク ス・ホルト (ジョージ・ エリオット全集 6)	彩流社、589+1(図版出典 一覧) pp.
2012.03.20 (平成24年)	阿部美恵 訳、	「兄ジェイコブ」ジョージ・エリオット著	松蔭大学紀要	第15号、pp. 207-18；第2章 の訳
2012.05.31 (平成24 年)	藪田美和 子、今泉瑞 枝	「テオフラストス・サッチの印象」、「訳者あとがき」	テオフラストス・サッチの	彩流社、297 pp.
2013.03.20 (平成25年)	阿部美恵 訳、	「兄ジェイコブ」ジョージ・エリオット作	松蔭大学紀要	第16号、pp. 199-208；第3 章の訳と解説
2013.08.30	柴田元幸 編・訳	ミドルマーチ	書き出し「世界文学全 集」	河出書房新社、pp. 47-49； 初出は『文藝』第48巻第4 号(河出書房新社、 2009.11.01)の連載「書き出 して読む『世界文学』 第 二回 英米女性作家」篇」
2014.06.01 (平成26 年)	前田淑江 (訳)、早 瀬和栄 (訳)、大 野直美 (訳)、玉 井暉(解 説)、廣野 由美子(解 説)	「スペインのジプシー」、「『スペインのジプシー』解説」、「とばりの彼方」、「ジェイコブ兄貴」、「『とばりの彼方』『ジェイコブ兄貴』解説」	スペインのジプシー 他 二編ーとばりの彼方、 ジェイコブ兄貴(ジョー ジ・エリオット全集 9)	彩流社、368+1(図版一 覧) pp.

2014.08.10	小野ゆき子 (訳)、池園宏 (訳)、石井昌子 (訳)、惣谷美智子 (解説)	「エイモス・バートン師の悲運」、「ギルフィル師の恋」、「ジャネットの悔悟」、「ジョージ・エリオットと『牧師たちの物語』」	牧師たちの物語 (ジョージ・エリオット全集 1)	彩流社、436 +1 (図版一覧) pp.
2014.10.31 (平成26年)	原公章 (訳、解説)	「ロモラ」、「解説」、「歴史上の人物一覧」、「訳者あとがき」	ロモラ (ジョージ・エリオット全集 5)	彩流社、709 pp.; 「ロモラ」 (pp. 1-674)、「解説」 (pp. 675-702)、「歴史上の人物一覧」 (pp. 703-06)、「訳者あとがき」 (pp. 707-09)
2014.12.15	大田美和 (訳、解説)、大竹麻衣子 (訳)、谷田恵司 (訳)、阿部美恵 (訳)、会田瑞枝 (訳)、永井容子 (訳)	「初期の韻文の試み」、「詩集『ジュバルの伝説』より—「ジュバルの伝説」を除いた詩」、「さらなる韻文の試み」、「解説」	詩集 (ジョージ・エリオット全集 10)	彩流社、368 pp. +1 p. (図版); 「初期の韻文の試み」 (pp. 5-15)、「詩集『ジュバルの伝説』より—「ジュバルの伝説」を除いた詩」 (pp. 17-166)、「さらなる韻文の試み」 (pp. 167-183)、「解説」 (pp. 185-200)
2018.08.30 (平成30年)	ジョージ・エリオット 著、三馬志伸編訳	剥がれたペール	ヴィクトリア朝怪異譚	作品社、pp. 91-15; 「訳注」、pp. 307-09; 解題「ジョージ・エリオットと『剥がれたペール』」 (pp. 317-21)
2018.09.28	富田成子	「序—ジョージ・エリオットと旅」、「ワイマール—一八五四年」、「ベルリン—一八五四～五五年」、「イルフラクーム—一八五六年」、「シラー諸島とジャージー—一八五七年」、「ミュンヘンからドレスデンへの旅—一八五八年」、「イタリア—一八六〇年」、「文献・あとがき」、各章に「解説」付き	回想録 ヨーロッパめぐり	彩流社、310 pp.
2019.01.20 (平成31年)	廣野由美子		ミドルマーチ 1	光文社古典新訳文庫、光文社、534 pp.; 「プレリュード」、「第1部 ミス・ブルック」、「第2部 老いと若さ」 (pp. 6-494); 「読書ガイド」 (廣野由美子、pp. 496-534)
2019.08.09 (令和元年)	奥村真紀	「サイラス・マーナー—ラヴィロウの織工」	『サイラス・マーナー—ラヴィロウの織工 付ジュバルの伝』 (ジョージ・エリオット全集 4)	彩流社、243 pp.; 「サイラス・マーナー—ラヴィロウの織工」 (奥村真紀訳、pp. 1-196)、「『サイラス・マーナー』解説」 (内田能嗣、pp. 197-208)、「ジュバルの伝説」 (pp. 209-34)、「『ジュバルの伝説』解説」 (清水伊津代、pp.
2019.08.09	清水伊津代	「ジュバルの伝説」、「『ジュバルの伝説』解説」	『サイラス・マーナー—ラヴィロウの織工 付ジュバルの伝』 (ジョージ・エリオット全集 4)	彩流社、243 pp.; 「ジュバルの伝説」 (pp. 209-34)、「『ジュバルの伝説』解説」 (pp. 235-43)

2019.09.20	小尾美佐	サイラス・マーナー	光文社古典新訳文庫、光文社、383 pp.	「サイラス・マーナー」(「第一部」、「第二部」、「結び」、pp. 5-349)、「解説」(富田成子、pp. 350-73)、「ジョージ・エリオット年譜」(pp. 374-79)、「訳者あとがき」(pp. 380-
2019.11.20	廣野由美子	ミドルマーチ 2	光文社古典新訳文庫、光文社、475 pp.	「第3部 死を待ちながら」(pp. 7-201)、「第4部 三つの愛の問題」(pp. 204-433)、「読書ガイド」(pp. 434-75)
2020.03.20 (令和2年)	荻野昌利	ミドルマーチ—ある田園生活の研究 前編	大阪教育図書、vi+649 pp.	「はじめに」(pp. iii-iv)、「目次」(pp. v-vi)、「プレリュード(序章)」(pp. 1-6)、「第一巻」～「第四巻」(pp. 7-649)
2020.03.20	荻野昌利	ミドルマーチ—ある田園生活の研究 後編	大阪教育図書、iv+642 pp.	「目次」(pp. iii-iv)、「第五巻」～「第八巻」(pp. 1-606)、「フィナーレ(終章)」(pp. 607-20)、「解説」(pp. 621-32)、「作中主要人物紹介」(pp. 633-36)、「使用テキスト」(pp. 637-38)、「あとがき」(pp. 639-40)、「記者略歴」
2020.07.20	廣野由美子	ミドルマーチ 3	光文社古典新訳文庫、光文社、493 pp.+1 p. [編集部]	「第5部 死の手」(pp. 7-232)、「第6部 未亡人と妻」(pp. 233-453)、「読書ガイド」(pp. 454-93)
2021.03.20 (令和3年)	廣野由美子	ミドルマーチ 4	光文社古典新訳文庫、光文社、485 pp.+1 p. [編集部]	「第7部 二つの誘惑」(pp. 7-203)、「第6部 日没と日の出」(pp. 205-431)、「読書ガイド」(pp. 432-71)、「ジョージ・エリオット年譜」(p. 472-81)、「訳者あとが

(2)研究書関係 (研究書のなかの一部として収められているものも含む)

発行年月日	著者名	タイトル	書名	発行所、頁等
2000.02.25 (平成12年)	竹内 章	サイラス・マーナーの黄金	藤井治彦先生退官記念論文集刊行会、『藤井治彦先生退官記念論文集』	英宝社、pp. 107-18.
2000.02.25	富田成子	Mr Gilfil's Love-Story'とGeorge Eliot	藤井治彦先生退官記念論文集刊行会、『藤井治彦先生退官記念論文集』	英宝社、pp. 501-12.
2000.03.25	藤田由季美	第8章 旅人の横顔—G・エリオット、ハーディの行商人たち	久守和子、大神田丈二、中川僚子編著『旅するイギリス文学—移動の想像力』	ミネルヴァ書房、pp. 162-81.
2000.03.30	津田聖子	『ロモラ』再考—ボッティチェリの幻影—	英語・英文学のエートスとパトス：杉本龍太郎教授古稀記念論文集	大阪教育図書、pp. 357-65.

2000.03.30	前田淑江	『アダム・ビード』：ヘティ・ソレル考	英語・英文学のエートスとパトス：杉本龍太郎教授古稀記念論文集	大阪教育図書、pp. 349-56.
2000.06.10	海老根宏、内田能嗣編	「まえがき」と「ジョージ・エリオット研究法」（海老根宏）、「ジョージ・エリオットの生涯」と「あとがき」（内田能嗣）、「ジョージ・エリオットとヴィクトリア朝文学」（荻野昌利）、エチュード：『エイモス・バートン牧師の悲運』（前田淑江）、『ギルフィル氏の恋物語』—『物語』と『語り』（清水伊津代）、『牧師たちの物語』から見た『ジャネットの悔悟』の肖像（岸本京子）、『アダム・ビード』における秘密の分身—ヘティ・ソレルとダイナ・モリス（植松みどり）、『アダム・ビード』の構成とスピノザ『エチカ』の教義（渡辺千枝子）、『アダム・ビード』再考—ヘティ・ソレルを中心に（津田聖子）、失われた幼年時代への固執—『フロス河の水車場』論（都留信夫）、『フロス河の水車場』—聖オグの人たち（富士川和男）、『フロス河の水車場』における男と女（松田英男）、「『サイラス・マーナー』—寓意のなかに見る作家の精神遍歴」（福永信哲）、「『サイラス・マーナー』論：人生の諸段階」（大嶋浩）、「『ロモラ』—混在の時空」（原公章）、「『ロモラ』—迷路からの脱出」（可児百合子）、「『急進主義者フィーリクス・ホルト』の語り手—謎の提示と真相の暴露」（鮎沢乗光）、「跡を継ぐもの—『急進主義者フィーリクス・ホルト』と〈秘密〉」（加藤雅之）、「『急進主義者フィーリクス・ホルト』：エリオットはいかに『荒涼館』を書き直したか」（天野みゆき）、「『ミドル・マーチ』と読みへの挑戦：廃墟の影」（平井雅子）、「『ミドルマーチ』」	ジョージ・エリオットの時空：小説の再評価	北星堂、361pp.
		—ヒロイズムから「幻滅」へ」（廣野由美子）、「『ミドルマーチ』の「ソロモンの審判」のイメージ」（大田美和）、「いかに変化を語るか—『ミドルマーチ』における女と科学」（松本三枝子）、『ダニエル・デロンダ』における音楽（手塚リリ子）、『ダニエル・デロンダ』—挑戦と飛翔（富田成子）、『ひきあげられたヴェール』の評価（山本紀美子）、『ジェイコブ兄貴』に見る時間と空間の諸問題（永井容子）、「あとがき」（内田能嗣）、「年譜」（山中優子）、「文献」（大口郁子）、「索引」（山中優子）		
2000.08.30	梶原君江	「第3章 ハーディ文学 後期」のなかの「2. 文学にみられる共存・共生」	永遠のいのち	京都修学社、pp. 173-203；『アダム・ビード』と『ダーバヴィル家のテス』における東西思想の共存・共生の関係を考察
2001.02.09 (平成13年)	河野徹	「第二章 近代英文学にみるユダヤ人像」における「二近代英文学にみる代表的ユダヤ人像」のなかの「(三) ダニエル・デロンダ」	英米文学のなかのユダヤ人	みすず書房、pp. 71-81, 349-50.
2001.03.	塩谷清人	『ダニエル・デロンダ』—二つの世界	中央大学人文科学研究編『喪失と覚醒—19世紀後半から20世紀への英文学』	中央大学出版部、中央大学人文科学研究研究所研究叢書27、pp. 23-38.
2001.03.22	三輪緑	『ダニエル・デロンダ』にみられるG・エリオットのユダヤ人観	西山清、小堀隆司、桑子利男、及川和夫編『出口保夫先生退職記念論文集 美神を追いて—イギリス・ロマン派の系譜』	音羽書房鶴見書店、pp. 171-79.
2001.03.30	中島正太 (Shota Nakajima)	Unraveling a Human Lot: Medical Reform and Political-Historical Dynamics in George Eliot's <i>Middlemarch</i>	言語・文学と文化—ヒューマニズムを中心として	徳島文理大学文学部 英米文学科、pp.101-13.

2001.05.15	岡田愛子	小説家ジョージ・エリオットの誕生」、「ジョージ・エリオットの『牧師の生活の諸風景』：長編小説家への歩み	魂と風景のイギリス小説	南雲堂、pp. 66-108, 109-54, 466-67, 468.
2002.04.25 (平成14年)	岩田託子	「第V章 『駆け落ち婚』から見た一九世紀イギリス文学史」のなかの「3 ジョージ・エリオットの場合」	イギリス式結婚狂騒曲	中央公論新社、中公新書、pp. 124-33.
2002.04.30	倉持晴美	目次 第一章 ジョージ・エリオットが生きた時代 第二章 ジョージ・エリオットの生涯 第三章 八大小説 第四章 評価の変遷、読みの変遷 年譜 主要参考文献	ジョージ・エリオット入門	光陽社出版、101 pp.
2002.05.01	大嶋浩	第4章 嬰兒殺し—ジョージ・エリオット『アダム・ビード』—	西條隆雄編『ヴィクトリア朝小説と犯罪』	音羽書房鶴見書店、pp. 169-238.
2002.05.15	松本啓	XII 理想と現実の狭間—『ミドルマーチ』をめぐる	中央大学人文科学研究so 編『埋もれた風景たちの発見：ヴィクトリア朝の文芸と文化』	中央大学出版部、中央大学人文科学研究so 研究叢書30、pp. 539-71.
2002.09.06	大嶋浩	第六章 ジョージ・エリオットがギヤスケルに負うもの	朝日千尺編『ギヤスケル小説の旅』	鳳書房、115-38.
2002.09.10	前田淑江	第一三章 『サイラス・マーナー』—過去からの贈りもの—	中岡洋、宇佐見太一、岸本吉孝編著『楽しめるイギリス文学—その栄光と現実—』	金星堂、pp. 164-76.
2002.09.25	Kenshiro Homma (本間賢史朗)	Part III, Chapter 5, "Kojin and George Eliot's <i>Silas Marner: The Weaver of Raveloe</i> "	<i>Natsume Soseki's Novels and English Literature</i> (Revised and Enlarged Edition)	英宝社、pp. 494-512 ; 他に pp. 450, 513, 554でもエリオットに言及 ; <i>Natsume Soseki: An East-West Comparative Study</i> (1997.09.01)の改訂増補版
2002.10.08	深澤 俊	九 ジョージ・エリオット	慰めの文学—イギリス小説の愉しみ	中央大学出版部、pp. 129-39.
2003.02.20 (平成15年)	Hideo Takano (高野秀夫)		<i>Cross-Cultural Reading of George Eliot</i> (『異文化のまなざしでジョージ・エリオットを読む』) [英文]	北星堂、195 pp.
2003.03.31	手塚リリ子	「II-7 『フィーリクス・ホルト』における聴覚の役割」	手塚リリ子・手塚喬介編著『想像力の飛翔—英語圏の文学・文化・言語』	北星堂、pp. 239-50; 「 <i>Felix Holt</i> における聴覚の世界」(『英文学思潮』第74巻、青山学院大学、2001.12.30)の一部を加筆修正したもの
2003.03.31	横山孝一	「II-6 ジョージ・エリオットと「とばりの彼方」『フロス河の水車場』」	手塚リリ子・手塚喬介編著『想像力の飛翔—英語圏の文学・文化・言語』	北星堂、pp. 227-38.

2003.05.20	岩田託子	「3 もの溢れるヴィクトリア朝と作家たち」のなかの「インテリアのドラマー ジョージ・エリオットの場合」	久守和子、中川僚子編著『〈インテリア〉で読むイギリス小説—室内空間の変容—』	ミネルヴァ書房、pp. 53-60 ; 他にpp. 43, 61, 222, 269でもエリオットに言及
2003.09.30	渡辺千枝子	〈序論〉、I. 若きジョージ・エリオットの世界観形成に果たすドイツ哲学・文学の役割 II. 『アダム・ビード』—スピノザ『エチカ』に学んだ倫理小説の技法— III. 『フロス河畔の水車小屋』とG・ケラー：『村のロメオとユリア』との関連について IV. ゴットフリート・ケラーにおける「自由」と「愛」の理念—『緑のハイリッヒ』から— V. 『ミドルマーチ』とゲーテ『ヴィルヘルム・マイスター』—「思想と行動の優れた結合」を求めて— VI. 『ダニエル・デロンダ』解釈の手がかりとして—ゲーテ『ファウスト』との関連—VII. 『ダニエル・デロンダ』とゲーテ『ファウスト』—「万有との融合」を求めて— 〈終章〉	ジョージ・エリオットとドイツ文学・哲学	創英社/三省堂書店、213 pp.
2003.10.31	大口郁子	『アダム・ビード』の語り—パストラルとリアリズムの間で	文学と評論社編『未来へのヴィジョン:英米文学の視点から』	英潮社、pp. 155-68.
2004.02.20 (平成16年)	吉田良夫	「第三章 ジョージ・エリオット」	英国女性作家の世界	大阪教育図書、pp. 205-235.
2004.03.10	天野みゆき	序章 エリオット研究史と本書の位置づけ 第一章『牧師生活の諸景』についての三つの視点：言語意識、絵画的描写、対話性 第二章『アダム・ビード』：芸術論の確立 第三章『フロス河の水車場』：『ジェイン・エア』との対話 第四章長編小説のはざまに生まれたもの：短編小説におけるエリオットの試み 第五章『サイラス・マーナー』：ワーズワスとの対話 第六章『ロメラ』：言語への情熱 第七章『急進主義者フィーリクス・ホルト』：ディケンズとの対話 第八章『ミドルマーチ』：境界を越えて 第九章『ダニエル・デロンダ』：未来への希望 終章エリオットの現代性	ジョージ・エリオットと言語・イメージ・対話	南雲堂、498 pp.
2004.03.25	高野秀夫	ジョージ・エリオット作『サイラス・マーナー』：今ひと時の豊かなコミュニケーションと愛と人生	加藤富夫、水野正勝、八木克正著『英語に結ばれて—後藤弘教授退職記念論集—』	共同文化社、pp. 185-95 ; 「ジョージ・エリオット作『サイラス・マーナー』：人生」（『駒澤短期大学研究紀要』第32号 [2004.03.25]）と同一内容
2004.03.25	高野秀夫	ジョージ・エリオット作『サイラス・マーナー』：今ひと時の豊かなコミュニケーションと愛と人生	後藤弘編著『英語研究の諸相—言語・教育・文学—』	共同文化社、pp. 185-95 ; 「『英語に結ばれて』から論考の部分を独立させ、若干の修正と補筆を施して世に問うもの」(p. i)
2004.06.05	中川僚子	5 食と言うコミュニケーション—『デイヴィッド・コパフィールド』、『フロス河畔の水車小屋』—	安達まみ・中川僚子編著『〈食〉で読むイギリス小説—欲望の変容—』	ミネルヴァ書房、pp. 94-118; 他にpp. 75-76, 194でもエリオットに言及
2004.06.20	荻野昌利	「第9章 ヴィクトリア朝イギリス」のなかの「8 〈鏡〉から〈窓〉へ—ジョージ・エリオットの場合」	視線の歴史—〈窓〉と西洋文明	世界思想社、pp. 281-89; 他にpp. 260, 317, 324, 327でもエリオットに言及

2004.07.15	石塚裕子	第4章 George Eliotと歴史と地中海	ヴィクトリアンの地中海	開文社、99-128;他にiii, 1, 10, 13, 27, 30, 74, 134, 160, 207でもエリオットに言及
2004.08.20	中島正太	文学作品と『映像化』の問題—ジョージ・エリオットの場 場合	山下昇、林以知郎、佐々木隆史、齊藤延喜 編著『表象と生のはざままで—葛藤する米英文学』	南雲堂、pp. 691-706.
2005.01.10 (平成17年)	倉持三郎	「第Ⅲ部 キリスト教と異教—牧師批判と聖書の読み直し—」の中の「第2章 『牧師の娘たち』における牧師批判—ジョージ・エリオット、トマス・ハーディと比較して」、 「第Ⅴ部 政治、階級、人種—支配者と被支配者—」の中の「第5章 『処女とジプシー』—ロマの誇り—」	D・H・ロレンスの作品と時代背景	彩流社、pp. 219-37, 487-501; 『牧師館風景』、『ミドルマーチ』、『スペインのジプシー』に言及
2005.02.25	荻野昌利	第八講 ジョージ・エリオット	『歴史を(読む)—ヴィクトリア朝の思想と文化—』	英宝社、pp. 190-219;他にpp. 46, 141, 221, 253, 270, 314, 327, 336.
2005.03.05	池園 宏	『ロモラ』における道徳的葛藤と女性像	園井英秀編、『英文学と道徳』	九州大学出版会、pp. 373-89; 他にpp. 236, 238でもエリオットへに言及
2005.03.15	武田美保子	豊穡なる亀裂—ジョージ・エリオットの『ダニエル・デロンダ』分析—	富山太佳夫、加藤史彦、石川慎一郎編、『テキストの地平—森春秀教授古稀記念論文集』	英宝社、pp.108-21.
2005.03.30	原 公章	『ミドルマーチ』における「心筋縮小」と「心筋拡張」	日本大学イギリス小説研究会編、『イギリス小説の探究: Explorations』	大阪教育図書、pp. 1-21.
2005.03.31	村山敏勝	医師の肖像—『ミドルマーチ』と細胞理論—	成蹊大学文学部学会編『病と文化』	風間書房、成蹊大学人文叢書 3、pp. 146-76.
2005.05.31	山根木加名子	「第三章 フェミニズム批評」のなかの「『アダム・ビード』にみるリアリズムと神話の二重構造—メドゥーサ・ヘティは家父長制社会の敵?」	現代批評でよむ英国女性小説—ウルフ、オースティン、ブロンテ、エリオット、ポウエン、リース—	鷹書房弓プレス、pp.74-91; もとになった論文は「『アダム・ビード』における二重構造—写実主義小説と神話の世界—」(「ジョージ・エリオット研究」第二号 [2000.11.22]:15-26.)
2005.09.05	松本 啓	第10章 理想と現実のはざ間—『ミドルマーチ』をめぐる—	イギリス小説の知的背景	中央大学出版部、中央大学学術叢書 (60)、pp. 187-215;初出は、中央大学人文科学研究所編『埋もれた風景たちの発見: ヴィクトリア朝の文芸と文化』(中央大学出版部、2002.05.15)所収の「XII 理想と現実の狭間—『ミドルマーチ』をめぐる—」
2005.11.23	可児百合子	『ミドルマーチ』に関する一考察—ドロシア、ロザモンド、メアリを中心に—	藤本昌司編著『言語表現と創造』	鳳書房、pp. 151-65.



2005.11.30	大嶋 浩	フィンセント・ファン・ゴッホとジョージ・エリオット	英語・英米文学の視座： 上山泰教授喜寿記念論文集	大阪教育図書、pp. 173-82.
2005.11.30	前田淑江	「ジェイコブ兄貴」にみる寓意、そして『サイラス・マーナー』へ	英語・英米文学の視座： 上山泰教授喜寿記念論文集	大阪教育図書、pp. 165-72.
2006.03.31 (平成18年)	中村祐子	『フィーリクス・ホルト』にみる私生児のナラティブー 「教養小説」の変形として	出淵敬子編『読書する女性たち：イギリス文学・文化論集』	彩流社、pp. 221-33.
2008.01.20 (平成20年)	廣野由美子	「ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』—恋に墜ちたリドゲイト」、 「ジョージ・エリオット『サイラス・マーナー』—錯覚がもたらした啓示」	視線は人を殺すか—小説論11講—	ミネルヴァ書房、pp. 49-53, 115-19; 他にpp. 189-90, 191 においてもエリオットに言及
2008.03.25	吉野啓子	ジョージ・エリオットの『サイラス・マーナー』における小説世界	英語で読み解く世界：松本佳子教授退職記念論文集	昭和堂、pp. 83-103.
2008.10.30	河村民部	「第7章 『フィーリクス・ホルト』およびその他の「政治」小説再評価」、 「第13章 ジェイムズはヴィクトリア朝作家の一人なのか—ジェイムズ的倫理感の特殊性について—」の中の「(一) ジェイムズは「偉大な伝統」の継承者なのか」「結びにかえて」	詩から小説へ—ワーズワースとロマン派の末裔—	英宝社、pp. 206-24, 375-87, 451-64; 他にpp. iv, vi, viii, 150, 162, 245, 356, 330, 346, 388, 390-91, 393においてもエリオットに言及
2008.11.23	大嶋浩、小野ゆき子、可児百合子、岸本京子編著		日本におけるジョージ・エリオット書誌	日本ジョージ・エリオット協会刊行、大阪教育図書、429 pp.
2008.12.10	岩田託子	酒の危なさ—十九世紀英国の危ない〈酒〉を「ジャネットの悔悟」に読む	横山茂雄編『危ない食卓：十九世紀イギリス文学にみる食と毒』	新人物往来社、pp. 113-35; 他にpp. 53, 60, 257においてもエリオットに言及
2009.01.20 (平成21年)	会田瑞枝	"The Lifted Veil"再考	英米文学の精神分析的考察:サイコアナリティカル英文学会創立35周年記念論文集	サイコアナリティカル英文学会、pp. 235-49.
2009.03.30	Mieko Matsumoto (松本三枝子)	Anxiety about Englishness in <i>Felix Holt, The Radical</i>	Mutsumu Takikawa, Masae Kawatsu, and Tomoyuki Tanaka, eds., <i>Ivy Never Sere: The Fiftieth Anniversary Publication of The Society of English Literature and Linguistics, Nagoya University</i>	Otowa-Shobo Tsurumi-Shoten, pp. 109-23.
2009.03.31 (平成21年)	田村真奈美	『アダム・ビード』試論	英語・英米文学のフォームとエッセンス:佐野哲朗教授喜寿記念論文集	大阪教育図書、pp. 397-405.

2009.03.31	高野秀夫	G. エリオット作『ミドルマーチ』—現実と幻想：東洋仏教思想:西洋型ブッダー	英語・英米文学のフォーラムとエッセンス:佐野哲朗教授喜寿記念論文集	大阪教育図書、pp. 417-25. (『駒澤短期大学研究紀要』第35号[2007.03.25]の論文に加筆、修正したもの)
2009.05.06	Harumi James (ジェイムズ・治美)	<i>Ruth, Adam Bede and Tess of the d'Urbervilles: Three Fallen Women and the Spirit of the Age</i>	阿部美恵、多比羅真理子編著『エリザベス・ギヤスケル—孤独と共感』	開文社出版、pp. 154-78.
2009.05.20	荻野昌利	「序論—何故ジョージ・エリオットとヘンリー・ジェイムズなのか—」、「第1章 『サイラス・マーナー』—第6章、その構造と機能—1」、「第2章 『フロス川の水車場』—フロス〈川〉を遡る—」、「第3章 『ロモラ』の時空を〈切る〉」、「第4章 『ミドルマーチ』—第60章、その構造と機能—」、「第5章 『ダニエル・デロンダ』—橋上での出会い—」	小説空間を〈読む〉—ジョージ・エリオットとヘンリー・ジェイムズ—	英宝社、pp. 3-15, 19-35, 36-53, 54-67, 68-80, 81-97.
2009.06.10	荻野昌利	ジョージ・エリオット 『ロモラ』の時空を〈切る〉	塩谷清人、富山太佳夫編『イギリス小説の愉しみ』	音羽書房鶴見書店、pp. 121-36 ; 『小説空間を〈読む〉—ジョージ・エリオットとヘンリー・ジェイムズ—
2009.11.01	大嶋 浩	明治期におけるジョージ・エリオット—最初の受容、及び翻訳・注釈関係を中心として	英文学の地平—テキスト・人間・文化—(植木研介先生退職記念論文集)	音羽書房鶴見書店、pp. 442-62.
2009.11.01	福永信哲	『ミドルマーチ』に見る宗教的偽善と意味の探求—パルストロードのテキストを読む	英文学の地平—テキスト・人間・文化—(植木研介先生退職記念論文集)	音羽書房鶴見書店、pp. 77-95.
2010.03.15 (平成22年)	馬淵恵里	「悩ましい世界」との調和を求めて—『フロス河の水車場』における社会的自己確立の可能性—	英米文学の可能性—玉井暉教授退職記念論文集—	英宝社、pp. 449-59.
2010.03.30	川崎明子	聖センリアに愛される者たち—『ダニエル・デロンダ』における音楽	富士川義之、久保内端郎、東雄一郎編著『梅檀の光』	金星堂書店、pp. 112-25.
2010.03.30	高野秀夫	ジョージ・エリオットの異文化観について—語り手と主人公と仏陀の話	富士川義之、久保内端郎、東雄一郎編著『梅檀の光』	金星堂書店、pp. 54-66.
2010.09.15	河合一充	「13章 キリスト教徒とシオニズム」の中の「ジョージ・エリオットの多大な影響」	イスラエル建国の歴史物語	ミルトス、pp. 190-92.
2010.11.30	西山史子	第11章 追い落とされる者たち—ヘンチャードとパルストロード—	福岡忠雄監修『「カスターブリッジの町長」についての11章』	英宝社、pp. 213-30.

2011.03.28 (平成23年)	富田成子	序論 ジョージ・エリオットと執筆活動、第一章 ジャーナリズムへの道 — 修行時代、第二章 自己表白のカタルシス — 評論活動、第三章 海辺の生活から生まれたもの — 「イラフラクーム回想録」、第四章 芸術か、市場か — 『牧師生活の諸景』、第五章 禁じられた恋いと楽園追放 — 『アダム・ビード』、第六章 主情の嵐の中で — 「引き上げられたヴェール」と『フロス河の水車場』、第七章 「家庭の天使」と新しい女 — 『サイラス・マーナー』、第八章 歴史小説と絵画 — 『ロモラ』、第九章 悲劇・笑劇・幕間狂言 — 『急進主義者フィーリクス・ホルト』、第十章 三巻本と貸本屋に挑戦する — 『ミドルマーチ』、第十一章 新境地を拓く — 『ダニエル・デロンダ』、終章 ジョージ・エリオットをめぐる人脈	ジョージ・エリオットと出版文化	南雲堂、360 pp.
2011.08.10	廣野由美子	第五書 「私」は超能力者 — ジョージ・エリオット「引き上げられたヴェール」 —	一人称小説とは何か — 異界の「私」の物語 —	ミネルヴァ書房、pp. 175-202; 他にpp. 245, 248 においてもエリオットに言及
2011.08.30	中川僚子	第6章 共に食し、共に生きる — 『デイヴィッド・コパフィールド』、『フロス河畔の水車場』の食の情景 —	日常の相貌 — イギリス小説を読む	水声社、pp. 109-31; 初出は『〈食〉で読むイギリス小説 — 欲望の変容 —』(2004.06.20), pp. 94-118.
2011.11.02	大嶋 浩	『ブラザー・ジェイコブ』における二つの金貨	イギリス文学のランドマーク：大榎茂行教授喜寿記念論文集	大阪教育図書、pp. 163-72.
2011.11.02	惣谷美智子	ジョージ・エリオット「エイモス・バートン師の悲運」 — "You have made me very happy" —	イギリス文学のランドマーク：大榎茂行教授喜寿記念論文集	大阪教育図書、pp. 143-51.
2011.11.02	福永信哲	『ミドルマーチ』にみる死生観とジョージ・エリオットの精神遍歴 — ドロシア・カソーボンの結婚の場合 —	イギリス文学のランドマーク：大榎茂行教授喜寿記念論文集	大阪教育図書、pp. 153-62.
2012.03.30 (平成24年)	矢野奈々	『ロモラ』におけるパラドックスの「ダーク・ヒロイン」	田村一男監修『英米文学の地平 — W. ワーズワスから日系アメリカ人作家まで』	金星堂、pp. 44-62.
2012.07.05	新野 緑	第八章 「知る事」の不幸 — エリオット『引き上げられたヴェール』とディケンズの短編小説 — ; 第九章 「自己」の在り処 — 『フロス河畔の水車小屋』と『辛い時代』 —	〈私〉語りの文学 — イギリス十九世紀小説と自己 —	英宝社、pp. 203-67.
2012.09.25	松本三枝子	序章; I ジョージ・エリオット 第1章 『フロス河の水車場』におけるマギー、語り手、ジョージ・エリオット 第2章 ポリフォニーとしての『ミドルマーチ』 — 諷刺家メアリ・ガースの役割と意味 第3章 『ダニエル・デロンダ』の矛盾 — ユダヤ人の紳士デロンダの限界	闘うヴィクトリア朝女性作家たち — エリオット、マーティノー、オリファント	彩流社、pp. 7-21, 23-54, 55-81, 83-114.
2013.03.27 (平成25年)	堀 紳介	<i>Silas Marner</i> における有機性の概念 — Silasの精神的成長における感覚、意識、視覚能力からの回復 —	英米文学の精神分析的考察 第2巻	サイコアナリティカル英文学会、pp. 183-200.
2013.06.10	田中泰子	19世紀 小説III — ディケンズ、サッカレー、ジョージ・エリオット	田中泰子遺稿集	大阪教育図書、pp. 89-98; エリオットへの言及はpp. 89-91; 初出は、杉本龍太郎、内田能嗣編『イギリス文学を読む：流れと諸相』(創元社、1994), pp. 105-13

2013.12.10	馬淵恵里	ドロシヤは何も創り出せず終わった後世のテレサなのか — 「移動」で読み解くエリオットのドロシヤ評価	石田久, 服部典之 編『移動する英米文学』	英宝社, pp. 115-35.
2014.02.25 (平成26年)	高野秀夫	序章: ジョージ・エリオットの異文化世界、第1章: 『牧師たちの物語』(I) 「エイモス・バートン師の悲運」 — 時間と感情の交錯、第2章: 『牧師たちの物語』(II) 「ギルフィル氏の恋物語」 — 現実と共感、第3章: 『牧師たちの物語』(III) 「ジャネットの悔悟」 — 必然性と秩序、第4章: 『アダム・ビード』 — ヘティエの本性と悲哀、第5章: 『フロス河の水車場』 — 苦難と再生、第6章: 『サイラス・マーナー』 — 今ひと時の豊かなコミュニケーションと愛と人生、第7章: 『ロモラ』 — 西洋と東洋の心の絆を求めて、第8章: 『急進主義者フィリックス・ホルト』 — トランサム夫人の“Love” 「慈悲」: 魂の言語、第9章: 『ミドルマーチ』 — 現実と幻想: 東洋仏教文化思想と西洋風ブツダ、第10章: 『ダニエル・デロンダ』 — 母と子: 仏教説話 捨身飼鹿	ジョージ・エリオットの異文化世界	春風社, 272 pp.
2014.06.15	海老根 宏	13 ジョージ・エリオットにおける現実と非現実 — 「これらは一つの比喻である」	海老根 宏・高橋和久編著『一九世紀「英国」小説の展開』	松柏社, pp. 255-77; 他に pp. 156, 174においてもエリオットに言及
2014.08.31	海老根 宏	「とぼりの彼方」とホーソンのヴェール	イギリス文学と文化のエートスとコンストラクション (石田久教授喜寿記念論文集)	大阪教育図書, pp. 301-11.
2014.08.31	斉藤健太郎	毒殺される主人公 — 「ひきあげられたヴェール」から「ダニエル・デロンダ」へ	イギリス文学と文化のエートスとコンストラクション (石田久教授喜寿記念論文集)	大阪教育図書, pp. 291-300.
2014.08.31	早瀬和榮	“The Lifted Veil”における語りとUnreality	イギリス文学と文化のエートスとコンストラクション (石田久教授喜寿記念論文集)	大阪教育図書, pp. 323-32.
2014.08.31	谷田恵司	金貨と砂糖 — ジョージ・エリオット「兄ジェイブ」における資本主義と帝国主義 —	イギリス文学と文化のエートスとコンストラクション (石田久教授喜寿記念論文集)	大阪教育図書, pp. 313-22.
2014.10.20	高野秀夫	ジョージ・エリオットによるチャーサー作『侯爵夫人の書』: 「黒衣の騎士」の受容	チャーサーと中世を眺めて: チャーサー研究会20周年記念論文集	麻生出版, pp. 438-44.
2014.12.05	原 公章	ジョージ・エリオットとジョージ・ヘンリー・ルイス — <i>Problems of Life and Mind</i> IV, VにおけるFeelingとDuty —	イギリス文学の悦び (原公章先生古稀記念論文集)	大阪教育図書, pp. 1-17.
2015.03.20 (平成27年)	榎 政行	第6章 ディケンズ、エリオット、そしてナイポールへ	刻まれた旅程: 英文学から英語圏文学へ	中京大学文化科学研究所, pp. 119-43.
2015.03.31	高野秀夫	12 ジョージ・エリオット作『ダニエル・デロンダ』 — 第三十七章「仏教説話」の異文化世界について	チャーサーと英米文学: 川崎征俊教授退職記念論文集	金星堂, pp. 177-93.
2015.09.15	阿部公彦	第7章 やさしさと抑圧 — ジョージ・エリオット『サイラス・マーナー』 (一八六一)	善意と悪意の文学史: 語り手は読者をどのように愛してきたか	東京大学出版会, pp. 133-48; 他に pp. vi, viii においてもエリオットに言及
2016.03.10 (平成28年)	松本三枝子	父との葛藤から民俗の使命へ — 『フロス河の水車場』から『ダニエル・デロンダ』へ	英文学における父の諸変奏 — 安田章一郎先生百寿記念論文集 —	英宝社, pp. 30-52.

2016.03.31	西山史子	「ギルフィル氏の恋」における音楽の力	文藝禮讃—アイデアとロゴス— (内田能嗣教授傘寿記念論文集)	大阪教育図書、pp. 517-31.
2016.03.31	植松みどり	「記憶の場」としてのジャネット・デンプスター—『牧師館生活の情景』から	文藝禮讃—アイデアとロゴス— (内田能嗣教授傘寿記念論文集)	大阪教育図書、pp. 533-44.
2016.03.31	大嶋 浩	「ブラザー・ジェイコブ」論—悪徳商人としてのデイヴィッド	文藝禮讃—アイデアとロゴス— (内田能嗣教授傘寿記念論文集)	大阪教育図書、pp. 545-53.
2016.03.31	斉藤健太郎	再生する主人公—『サイラス・マーナー』から『ダニエル・デロンダ』へ—	文藝禮讃—アイデアとロゴス— (内田能嗣教授傘寿記念論文集)	大阪教育図書、pp. 555-63.
2016.03.31	永井容子	「あなたの宝のある所には、心もある」：エリオットの『ミドルマーチ』とジェイムズの『ある婦人の肖像』	文藝禮讃—アイデアとロゴス— (内田能嗣教授傘寿記念論文集)	大阪教育図書、pp. 565-73.
2016.03.31	会田瑞枝	<i>Daniel Deronda</i> 再考—トポグラフィの視点から	文藝禮讃—アイデアとロゴス— (内田能嗣教授傘寿記念論文集)	大阪教育図書、pp. 575-85.
2016.03.31	池園 宏	孤児の物語として読む『ダニエル・デロンダ』	文藝禮讃—アイデアとロゴス— (内田能嗣教授傘寿記念論文集)	大阪教育図書、pp. 587-96.
2016.03.31	高野秀夫	ジョージ・エリオット作『ダニエル・デロンダ』—ロマンスと現実：東洋の瞑想—	文藝禮讃—アイデアとロゴス— (内田能嗣教授傘寿記念論文集)	大阪教育図書、pp. 597-607.
2016.03.31	福永信哲	ダニエル・デロンダ—隠されたアイデンティティの探究—	文藝禮讃—アイデアとロゴス— (内田能嗣教授傘寿記念論文集)	大阪教育図書、pp. 609-18.
2016.03.31	藤田 繁	『ダニエル・デロンダ』—テムズをめぐって—	文藝禮讃—アイデアとロゴス— (内田能嗣教授傘寿記念論文集)	大阪教育図書、pp. 619-29.
2016.03.31	富田成子	咲き誇るバラ—“Woman in France: Madame de Sablé”考	文藝禮讃—アイデアとロゴス— (内田能嗣教授傘寿記念論文集)	大阪教育図書、pp. 631-40.
2016.03.31	廣野由美子	ジョージ・エリオット文学における実存思想—フランク心理学との接点	文藝禮讃—アイデアとロゴス— (内田能嗣教授傘寿記念論文集)	大阪教育図書、pp. 641-49.
2016.03.31	久保木雅子	キャサリン・マンスフィールドとジョージ・エリオット—両者の接点をめぐって	文藝禮讃—アイデアとロゴス— (内田能嗣教授傘寿記念論文集)	大阪教育図書、pp. 811-19.
2016.03.31	原 公章	“The Modern Malady”と19世紀イギリス文学	文藝禮讃—アイデアとロゴス— (内田能嗣教授傘寿記念論文集)	大阪教育図書、pp. 908-23.
2016.07.05 (平成28年)	福永信哲	まえがき、序章 人間ジョージ・エリオットとその時代、第I章 『急進主義者フィリクス・ホルト』を読む、第II章 『ミドルマーチ』を読む、第III章 『ダニエル・デロンダを読む』、終章 倫理的人道主義とその遺産、あとがき	ジョージ・エリオットの後期小説を読む—キリスト教と科学の葛藤—	英宝社、x+2+381 pp.

2016.08.06	今井 けい	「第三章 女性解放運動の源流を探る」の中の「1 ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』とディルク夫人の慈善・労働運動」	現代イギリス女性運動史—ジェンダー平等と階級の平等	ドメス出版、pp. 104-32；他にpp. 13, 151においてもエリオットに言及；「ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』とディルク夫人の慈善・労働運動」、『紀要（社会・自然科学）』第22号（大東文化大学、1983.03.31）:143-73を加筆・修正したもの
2017.03.15 （平成29年）	矢野 奈々	序章、第一章 枠の崩壊と「家庭の天使」、第二章「黒髪」に見る伝統からの逸脱、第三章「ダーク・ヒロイン」たちの魔性性、第四章 パラドックスの「ダーク・ヒロイン」の誕生、第五章 黒服を着る女性たち—従属性からの解放、第六章 水のイメージと新たな旅立ち—ジェンダーの二項対立解消への期待と不安、終章、主要参考文献一覧、あとがき、索引	ダーク・ヒロイン—ジョージ・エリオットと新しい女性像	彩流社、319+viii pp.
2018.03.30 （平成30年）	木下未果子	序章、第一部 社会通念と自己の「現れ」、第一章「聞く」こと、「物語る」こと、第二章「私のヴィジョン」への道のり、第二部 到達する新領域、第三章移動を超えて、第四章 帰属の曖昧性、第三部 分散した「個」から「共通世界」構築へ、第五章「亡命」からの解放、第六章 パジエントによる「共通世界」構築の試み	共鳴するジョージ・エリオットとヴァージニア・ウルフ	彩流社、304 pp.
2018.03.31	武田美保子	第1章 『ダニエル・デロンダ』のねじれ—「顔」が暴く豊穡なる亀裂	身体と感情を読むイギリス小説—精神分析、セクシュアリティ、優生学	春風社、pp. 23-46；他にpp. 17, 46, 47においてもエリオットに言及
2018.10.11	原 公章	「第二部 ジョージ・エリオット、ほかをめぐって」の中の「Silas Marnerの「近視」と「強硬症」」、「解釈という病— <i>Silas Marner</i> の一局面」、「『ロモラ』—混在の時空」、「『ミドルマーチ』における「心筋縮小」と「心筋拡大」」、「 <i>Daniel Deronda</i> 論—Gwendolen Harlethの結婚をめぐって—」、「ジョージ・エリオットとジョージ・ヘンリー・ルイス— <i>Problems of Life and Mind</i> IV, VにおけるFeelingとDuty—」、「ウォルター・スコットの小説におけるダーク・ヒロイン」及び「ターシャス・リドゲイト（ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』—『英語青年』のアンケート「この人物がいい」に答えて—）」；「第三部 最終講義」；「第4部 書評と推薦の言葉」の中の「萩野昌利『歴史を〈読む〉—ヴィクトリア朝の思想と文化』」、「Bernard J. Paris, <i>Rereading George Eliot, Changing Responses to Her Experiments in Life</i> 」及び「Masayuki Tersnishi, <i>Polyphony in Fiction: A Stylistic Analysis of Middlemarch, Nostromo, and</i>	英文学と教養のために— <i>Further Salmagundi</i>	大阪教育図書、pp. 53-172, 196-253.
2019.07.20 （令和元年）	天野みゆき	第4章 ジョージ・エリオット『ダニエル・デロンダ』における恐怖と苦悩の劇的展開—『ヴィレット』を発展させた物語	惣谷美智子、岩上はる子編、『めぐりあうテキストたち—ブロンテ文学の遺産と影響』	春風社、pp. 65-82.
2020.03.30 （令和2年）	金子幸男	コテージ・イングリッシュネス—ジョージ・エリオット『サイラス・マーナー』における老いの表象	イギリス小説読書研究会編、『英語圏小説と老い』	開文社、pp. 15-60.

2021.04.25 (令和3年)	廣野由美子	「まえがき」；「I小説技法篇」：「1プロローグ」、「2題辞」、「3語り手の介入」、「4パノラマ」、「5会話」、「6手紙」、「7意識の流れ」、「8象徴性」、「9ミステリー/サスペンス/サプライズ」、「10マジック・リアリズム」、「11ポリフォニー」、「12部立て/章立て」、「13クライマックス」、「14天候」、「15エピローグ」；「II小説読解篇」：「1宗教」、「2経済」、「3社会」、「4政治」、「5歴史」、「6倫理」、「7教育」、「8心理」、「9科学」、「10犯罪」、「11芸術」；「あとがき」；	小説読解入門—『ミドルマーチ』教養講座	中公新書、中央公論新社、273 pp.
----------------------	-------	--	---------------------	---------------------

(3)概説書関係(事典・辞典、文学史、文化史等およびエリオットへの言及がなされている論文等を含む)				
発行年月日	著者名	タイトル等	書名	発行所、頁等
2000.02.15 (平成12年)	松本三枝子	「第6章 19世紀の文化と文学」のなかの「V. ジョージ・エリオットとイギリス社会」	江藤秀一、松本三枝子編『イギリス文化・文学への誘い』	開拓社、pp. 238-44.
2000.11.10	関 祐三郎	「第12章 ヴィクトリア朝の小説」のなかの「ジョージ・エリオット」	『作品が語るイギリス文学史』	開拓社、pp. 167-70.
2000.12.20	倉持三郎、 倉持晴美	「第一章 小説—人間の探求」の中の「19世紀—小説の興隆」における「ジョージ・エリオット」	イギリス小説の魅力	光陽社出版、pp. 19-21.
2002.02.26 (平成14年)	川本静子	エリオット ジョージ George Eliot	集英社 世界文学事典	集英社、p. 243.
2002.03.29	川本静子	百年目のジョージ・エリオット	女の長い列	発行者 川本静子、pp. 27-31；他にpp. 5, 6, 7, 9, 23-25, 34, 53, 61, 61-62, 64, 85, 85-86, 94, 95, 96においてもエリオットに言及；「月刊誌その他に寄稿した小文」をまとめたもの(「あとがき」、p. 114)
2002.07.25	日外アソシエーツ株式会社編集	エリオット, G.	読書案内 世界の作家—伝記と作品 新訂版	日外アソシエーツ、pp. 71-72；『読書案内・伝記編 世界の作家』(1996.02.20)の新訂版
2002.11.25	藤田由季美	愛を求める孤独な闘い ジョージ・エリオット 『フロス河畔の水車場』	高田賢一、中村邦生編著『シリーズ・文学ガイド ⑨ たのしく読める英米青春小説』	ミネルヴァ書房、pp. 74-75.
2003.10.30 (平成15年)	原 公章	ジョージ・エリオット文学の背景を求めて	英語と英文学のために	大阪教育図書、pp. 229-33; pp. 70, 74, 104, 122-23, 127, 151, 160, 163, 166-67, 216, 217, 220, 226でもエリオットに言及
2004.01.15 (平成16年)	佐野 晃	「Adam Bede」、「Eliot, George' (1819-80)」、「Middlemarch」、「Silas Marner」	上田和夫編『イギリス文学辞典』	研究社、pp. 4, 110, 229, 325.
2004.03.25	世界文学研究会編著	サイラス・マーナー	面白いほどよくわかる世界の文学	日本文芸社、pp. 70-71;他にp. 90においてもエリオットに言及
2004.07.10	丹治竜郎	「付録:世界名作選」の中の「ミドルマーチ」	浅井 清、佐藤 勝編、『日本現代小説大事典』	明治書院、pp. 1425.

2004.07.30	立松和平監修	『サイラス・マーナー』ジョージ・エリオット	要約世界の宗教文学13篇: 完全読破の気分になれる!	校成出版会、pp. 39-55.
2004.09.20	中林良雄	ジョージ・エリオット 『ミドルマーチ』	今江夏彦、田代 稔、中林良雄、平高典子、マリア・デル・マル・ホルヘ著、『あらすじで読む世界文学105』	玉川大学出版部、p. 48.
2004.10.25		エリオット, ジョージ (George ELIOT, 1819-1880)	世界女性人名事典編集委員会編『世界女性人名事典—歴史の中の女性たち—』	日外アソシエーツ株式会社(発行所)、紀伊國屋書店(発売元)、p. 120; 不正確な記述が含まれている。
2005.12.22 (平成17年)	横山茂雄・石堂藍 監修	「サイラス・マーナー」、「ダニエル・デロンダ」	世界文学あらすじ大事典 2	国書刊行会、pp. 227-30, 639-43.
2006.07.25 (平成18年)	安藤和弘	ミドルマーチ	青木和夫編、『名作あらすじ事典—西洋文学編—』	明治書院、pp. 135-36.
2006.08.25	馬場勝彌(馬場弧蝶)	サイラス マーナー — エリオット —	近代名著解題選集 1: 世界名著解題	クレス出版、pp. 292-303 ; 『世界名著解題』(1927.08.20)の複製版
2007.04.20 (平成19年)	鮎澤乗光	エリオット, ジョージ	木下卓、窪田憲子、高田賢一、野田研一、久守和子編著『英語文学事典』	ミネルヴァ書房、pp. 84-86 ; 他にpp. 99, 152, 290, 413, 423, 452, 648, 649, 672, 792においてもエリオットに言及
2007.06.27		「第二部 あの名作はいつ日本に紹介されたのか—受け入れと翻訳の起源」の中の「『サイラス・マーナー』(イギリス) G.エリオット作(一八六一年)」	児童文学翻訳大事典 第1巻 図説 日本の外国児童文学	大空社; ナダ出版センター、p. 266 ; 『サイラス・マーナー』に関する図版4葉掲載
2007.11.27	度会好一	「第1章 ユダヤ人はパレスチナに復帰する」の中の「ダニエル・デロンダのユダヤ人国家論」及び「エリオットの親ユダヤ、親シオニズムの裏面」	ユダヤ人とイギリス帝国	岩波書店、pp. 91-94, 97-101.
2008.04.25 (平成20年)	岡田量一	小悪恐るべし—ジョージ・エリオット『サイラス・マーナー』	世界の名作へ、ようこそ: 読者の感動と認識を高める文学ガイド	彩流社、pp. 63-81.
2008.10.10	前田淑江	一五 コヴェントリー—ジョージ・エリオット文学のふるさと	内田能嗣・白井義昭監修『草そよぐ荒野に吹く風: ブロンテ姉妹のハリファックス』	大阪教育図書、pp. 38-41 ; 他に「旅程」(内田能嗣)においてもエリオットに言及(p. xii)
2009.02.20 (平成21年)	ヘンリー・ジェイムズ著、市川美香子、水野尚之、舟阪洋子訳	「第三巻 道半ば」の「第五章 ノース・バンクのジョージ・エリオット(一八六九年)、グレヴィル夫人、ウィトリエのエリオット、つき返された新著(一八七八年)」	ある青年の覚え書・道半ば—ヘンリー・ジェイムズ自伝 第二巻、第三巻	大阪教育図書、pp. 470-86, 610n1, 611n2, 611n4, 611n6, 612n14, 612n21, 612n22 ; 他にpp. 18, 20, 143, 229-30, 369, 385, 386, 387, 388, 391, 398, 512n27, 554n31, 588n82, 592n27, 592n28, 593n39, 593n40, 607n5, 614n14, 626 においてもエリオットに言及
2009.11.10	伊吹知勢	ジョージ・エリオット サイラス・マーナー	加藤光也解説・立野正裕編『イギリス文学: 名作と主人公』(立野政裕→立野正裕編)	自由国民社、pp. 106-08.



2010.03.25 (平成22年)	阿部公彦	chapter 4 強さ — ジョージ・エリオット『ダニエル・デロンダ』	英語文章読本	研究社、pp. 49-63 ; 初出は『英語青年』第154巻第4号(2008.07.01), pp. 33-37.
2010.09.10	安藤和弘	ミドルマーチ	青木和夫、丹治竜郎、安藤和弘著『知っておきたいイギリス文学』	明治書院、pp. 82-84 ; 他にp. 16においてもエリオットに言及
2010.10.19	ヘンリー・ヒッチングズ著、田中京子訳	「第十二章 なぜ今でも十九世紀小説が読まれるのか？」の中の「ディケンズを同時代の作家たちと比べれば？」	世界文学を読めば何が変わる？	みすず書房、pp. 239-51 ; エリオットへの言及は239-42, 244;他にpp. 5, 39-40, 234, 252, 273-74においてもエリオットに言及
2010.02.22	内田能嗣、原 公章編	「まえがき」(内田能嗣)、「あらすじ編」:『牧師たちの物語』の中の「エイモス・バートン師の悲運」(西山裕子)、「ギルフィル氏の恋物語」(藤原知子)、「ジャンネットの悔悟」(伏原玲子)、『アダム・ビード』(会田瑞枝)、『フロス河の水車場』(富田成子)、『サイラス・マーナー』(阿部美恵)、『ロモラ』(岸本京子)、『急進主義者フィークス・ホルト』(永井容子)、『ミドルマーチ—地方生活の研究』(前田淑江)、『ダニエル・デロンダ』(谷田恵司)、短篇「とぼりの彼方」(早瀬和栄)、短篇「ジェイコブ兄貴」(奥村真紀)、「解説編」:「I ジョージ・エリオットの生涯」(小野ゆき子)、「II ジョージ・エリオットとジェイン・オースティン」(惣谷美智子)、「III ジョージ・エリオットとブロンテ姉妹」(山本紀美子)、「IV ジョージ・エリオットは一九世紀にはどのように受け入れられたか」(福永信哲)、「V ジョージ・エリオットは現代ではどのように受け入れられているか」(清水伊津代)、「VI ジョージ・エリオットの小説はそのよりに読めばよいのか」(土嶋浩)、「エリオット	あらすじで読むジョージ・エリオットの小説	大阪教育図書、viii + 182 pp.
2011.11.07 (平成23年)	平出昌嗣	5. ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』 — George Eliot, <i>Middlemarch</i> —	イギリス文学名作30選	鷹書房弓ブレス、pp. 43-53.
2012.11.27 (平成24年)	内田能嗣、福永信哲監修	「まえがき」、「ジョージ・エリオット・カンタリー地図」、「旅程」 — コヴェントリー—新たな世界への旅立ち — コヴェントリー—知的熟成の軌跡 — コヴェントリーを歩いて— 鉄道駅、博物館、ギルドホール、そして『ミドルマーチ』 — ナニートン—ジョージ・エリオットの原風景 — ナニートン—小説家エリオットの出発点 — ナニートン—追憶の輝き — オックスフォード、ストーンヘンジ、ソールズベリー—知性の都から神秘境への旅 — ドーチェスター—ハーディ・カンタリーの中心地 — セント・ステインズフォード教会、ハーディ生家、マックス・ゲイト、ポートランド、ウェイマス—トマス・ハーディの軌跡 — 〇 ストランド—四番地とケンブリッジ—一番地—エリオットの修行時代 — ホリー・ロッジ、プライオリ、ハイツ—作家として、ルイスと共に — ロンドン—旅路のおわりに、「あとがき」、「監修者・編集者・執筆者紹介」	エリオット・カンタリーをゆく — 作家と故郷の絆	大阪教育図書、62 pp.
2013.07.25 (平成25年)	白井義昭	第XI章 エリオットとハーディ	読んで愉しむイギリス文学史入門 (横浜市立大学新叢書 02)	春風社、pp. 93-102; エリオットへの言及はpp. 93-95, 99-100, 101.
2013.10.19	ピーター・ボックスオール編著、別宮貞徳日本語版監修	「アダム・ビード物語」、「フロス河の水車場」、「サイラス・マーナー」、「ミドルマーチ」	世界の小説大百科 : :死ぬまでに読むべき1001冊の本	終風舎、pp. 143, 147, 149, 172.
2013.12.12		エリオット Eliot, George	岩波書店辞典編集部『岩波 世界人名大辞典』(第1分冊 ア〜テ)	岩波書店、pp. 415-16.

2014.06.04 (平成26年)	クリストファー・ベルトン著、渡辺順子訳	「Art and Literature 芸術と文学」、「Wisdom 知恵」、「Despair 絶望」、「Evil 悪」、「Jealousy 嫉妬」、「Loneliness 孤独」、「Regret 後悔」、「Sorrow 悲しみ」、「Children and Childhood 子どもと子ども時代」、「Music 音楽」、「Destiny 運命」、「Secret 秘密」、「Vanity 虚栄心」、「Education 教育」、「Imagination 想像力」、「Success 成功」、「Human Nature 人間性」、「Woman 女性」	世界文学の名言	IBCパブリッシング株式会社、pp. 23, 59, 67, 68, 73, 75, 82, 83, 84, 88, 96, 103, 120, 135, 160, 189, 196, 201, 211, 245, 272, 291.
2014.06.25	川崎明子	ジョージ・エリオット	石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』	三修社、pp. 184-85；他にpp. 163, 164, 165, 200, 351, 358, 383, 408においてもエリオットに言及
2015.04.25 (平成27年)		エリオット, ジョージ	英米小説原題邦題事典(追補版 2003-2013)	日外アソシエーツ株式会社(編集・発行)、紀伊國屋書店(発売)、p. 64.
2016.06.01 (平成28年)	研究社編集部編、三瓶望美 筆記体	33 サイラス・マーナー	英語の名文をなぞる〈筆記体〉練習帳	研究社、pp. 70-71.
2017.05.10 (平成29年)	ジェイムズ・キャントンほか著、日本語版監修 沼野充義、越前敏弥訳	「ひとつの問題をさまざまな立場から見るができないのは、了見がせまいからだ『ミドルマーチ』(1871年~1872年) ジョージ・エリオット」、「『ダニエル・デロンダ(1876年) ジョージ・エリオット』」	世界文学大図鑑	三省堂、pp. 182-83, 200；他にpp. 109, 1119, 128, 129, 130, 156, 174, 175においてもエリオットに言及
2018.08.08 (平成30年)	高野秀夫	「第四章 イングランド中部」の「八 ジョージ・エリオットの町 ナニートン」	宇野 毅・市川 仁・石原孝哉、伊澤東一編著『田園のイングランド：歴史と文学でめぐる四八景』	彩流社、pp. 165-68.
2018.08.10	高野秀夫	34 町が世界に誇る女性作家—ジョージ・エリオット	石原孝哉、市川 仁編著『イギリス文学を旅する60章』(エリア・スタディーズ 167)	明石書店、pp. 218-22.
2019.08.05 (令和元年)	ピーター・ヒューム監修、齋藤孝日本語訳監修	ジョージ・エリオット	図鑑 世界の文学者	東京書籍、pp. 104- 105; エリオットの肖像(p. 104)；他にp. 97においてもエリオットに言及

#### (4)研究論文(雑誌、学会誌、紀要類) 関係

発行年月日	著者名	タイトル	雑誌・学会誌名	発行所、頁等
2000. (平成12年)	WATANABE Aiko	Consuming Nostalgia: Screen Adaptations of British Literary Classics in Postmodernity	<i>Iconics</i>	Volume 5、日本映像学会(Japan Society of Image Arts and Sciences)、pp. 141-62.
2000.01.	Haruho Murayama (村山春穂)	Religious Ideas in George Eliot's <i>Silas Marner</i>	「三育学院短期大学紀要」第28号	三育学院短期大学、pp. 74-89.
2000.01.25	片岡信	無名のプロメテウス—『ダニエル・デロンダ』における「ヒロイズム」の問題—	「聖心女子大学論叢」第94集	聖心女子大学、pp. 41-57.

2000.01.31	会田瑞枝	"The Lifted Veil"におけるLatimerの心の闇	「帝京大学文学部紀要 米英言語文化」第31号	帝京大学文学部 米英言語文化学科、 pp. 25-37.
2000.02.23	天野みゆき	ジョージ・エリオットと17世紀オランダ絵画	「広島女子大学国際文化 学部紀要」第8号	広島女子大学、 pp. 21-37.
2000.02.25	富士川和男	「フロス河の水車場」と二つの家	「獨協大学英語研究」第 51号	獨協大学外国語学部 英語学科、pp. 65-81.
2000.03.	富田成子	<i>Felix Holt, the Radical</i> における喜劇性	「甲子園大学紀要 (B) 経 営情報学部編」第27号	甲子園大学、 pp. 149-60.
2000.03.01	玉木沙織	ジョージ・エリオット著『サイラス・マーナー』につい ての一考察—サイラスの心理変化とその要因	「EliSSS」第12号	仙台白百合短期大学 英語科、pp 31-45.
2000.03.10	兼中裕美	<i>Daniel Deronda</i> における"Unity"再考	「舞鶴工業高等専門学校 紀要」第35号	舞鶴工業高等専門学校、 pp. 59-63.
2000.03.10	徳山悦子	ジョージ・エリオット『サイラス・マーナー』：サイラ ス・マーナーの人間回復	「甲子園短期大学紀要」 第18号	甲子園短期大学、pp. 47-53.
2000.03.16	Ichiba, Fumiya (市場史 哉)	"Thing in Itself" and Realism in <i>Middlemarch</i>	「core」29	同志社大学英文学会 CORE編集部、pp. 33-46.
2000.03.20	江澤美月	聖テレサにならいて—Margaret DrabbleとGeorge Eliot にお けるヒロイン達の成長—	ありす	第十九号、ありす事務局、 pp. 9-27.
2000.03.31	入口希美子	<i>Daniel Deronda</i> における悲劇の周辺—個人の見方とヴィ クトリア朝社会	「論集」第24号	青山学院大学大学院 文学専攻科英米文学専攻 院生会、pp. 1-16.
2000.03.31	嶋田貴美子	<i>Middlemarch</i> : II. Lydgateの人生における理想の挫折につ いて(2)	「上田女子短期大学紀 要」第23号	上田女子短期大学、 pp. 71-87.
2000.03.31	杉田雅子	George Eliot, Barbara Leigh Smith Bodichon and <i>Romola</i>	「論集(Tsuda Inquiry)」第 21号	津田塾大学大学院 英文学会、pp. 115-31.
2000.03.31	松田誠思	反逆する女性たち—フロラ・トリスタンとジョージ・エ リオット	「生涯学習センター紀 要」第3号	神戸親和女子大学 生涯学習センター、 pp. 75-77.
2000.08.10	西山史子	放浪から再生へ— <i>Daniel Deronda</i> における英国人とユダ ヤ人—	神戸英米論叢	第14号、神戸英米文学会、 pp. 55-66.
2000.08.31	Maiko Ohtake (大 竹麻衣子)	<i>Felix Holt, the Radical</i> : Organicism and Sexual/Political Dialectics	<i>Random</i>	No. 25、東京外国語大学大 学院英語英文学研究会、 pp. 75-95.
2000.09.29	Reiko Nakagami (中上玲 子)	Water Images in <i>Middlemarch</i> : A Note on George Eliot's Use of Metaphor	リーディング	第21号、東京大学大学院英 文学研究会/リーディング 編集部、pp. 83-91.
2000.11.22	片岡信	<i>Daniel Deronda</i> における「ギャンブル」の意味について	「ジョージ・エリオット 研究」第二号	日本ジョージ・エリオット 協会、pp. 1-14.
2000.11.22	中村祐子	<i>Silas Marner</i> におけるEppieの無邪気な挑戦	「ジョージ・エリオット 研究」第二号	日本ジョージ・エリオット 協会、 pp. 45-57.

2000.11.22	Shintetsu Fukunaga (福永信哲)	Dorothea's Honeymoon in Rome—A Beginning of Her Enlightenment	「ジョージ・エリオット研究」第二号	日本ジョージ・エリオット協会、pp. 59-75.
2000.11.22	前田淑江	『アダム・ビード』におけるヘティの役割	「ジョージ・エリオット研究」第二号	日本ジョージ・エリオット協会、pp. 31-43.
2000.11.22	山根木加名子	『アダム・ビード』における二重構造—写実主義小説と神話の世界—	「ジョージ・エリオット研究」第二号	日本ジョージ・エリオット協会、pp. 15-29.
2000.12.	池園宏	"The Lifted Veil"における「知ること」の意義	「英語と英米文学」第35号	山口大学、pp. 87-104.
2000.12.31	安富良之	トム・タリヴァーについて	「千葉商大紀要」第38巻第2・第3合併号	千葉商科大学国府台学会、pp. 39-55.
2001.02.01 (平成13年)	松田英男	グウェンドレンの物語—『ダニエル・デロンダ』再考	「英文学評論」第73集	京都大学総合人間学部英語部会、pp. 33-48.
2001.02.16	天野みゆき	『ロモラ』—言語への情熱	「広島女子大学国際文化学部紀要」第9号	県立広島女子大学、pp. 65-74
2001.03.	閑田朋子	ヴィクトリア朝「社会問題小説」研究における問題点	英語英文学論叢	第22号、日本大学大学院英語英文学研究会、pp. 41-54.
2001.03.	中島正太 (Shota Nakajima)	A Story Told by a Sick Body: Narrative as Illness in George Eliot's <i>The Lifted Veil</i>	「徳島文理大学文学論叢」第18号	徳島文理大学文学部文学論叢編集委員会、pp. 1-11.
2001.03.01	伏原玲子	ヴィクトリア朝女性の自立と結婚について	「仏教大学大学院紀要」第29号	佛教大学大学院、pp. 107-14.
2001.03.15	橋本テイ子	Wordsworthian Imagination in <i>Adam Bede</i>	「昭和薬科大学紀要（人文・社会・自然）」第35号	昭和薬科大学、pp. 13-23.
2001.03.15	福永信哲	On <i>The Lifted Veil</i> : The Conflict of the Creative Artist	「岡山大学教育学部研究集録」第116号	岡山大学教育学部、pp. 85-89.
2001.03.20	Maiko OHTAKE (大竹麻衣子)	<i>The Mill on the Floss</i> : The Twin Epics of Brother and Sister against the Background of English Provincial Life	津田塾大学紀要	No. 33、津田塾大学紀要委員会、pp. 147-67.
2001.03.23	佐野哲郎	説教者の復権—『ミドルマーチ』について	「SAP」第9号	日本詩学会、pp. 54-60.
2001.03.25	鈴木邦成	『ダニエル・デロンダ』に関する一考察—旧約聖書・ダニエル書からの重層的なイメージの影響を踏まえて—	中央大学大学院論究（文学研究科篇）	第三十三号（第三十三巻第一号）、中央大学大学院生研究機関誌編集委員会、pp. 29-42.
2001.03.31	会田瑞枝	<i>The Spanish Gypsy</i> by George Eliot 劇詩—宿命に生きる人びと	「英文学論叢」第49巻	日本大学英文学会、pp. 109-20.
2001.03.31	Maiko Ohtake (大竹麻衣子)	<i>Daniel Deronda</i> : Towards a New Religion of Community	論集( <i>Tsuda Inquiry</i> )	第22号、津田塾大学大学院英文学会、pp. 19-31.
2001.03.31	嶋田貴美子	<i>Middlemarch II</i> . Lydgateの人生における理想の挫折について(3)	紀要	第二十四号、上田女子短期大学、pp.71-87.

2001.03.31	前田淑江	ジョージ・エリオットの「ジェイコブ兄貴」再考	「文芸・芸術・文化」第12巻第2号	近畿大学文芸学部、pp. 105-18.
2001.04.20	廣野由美子	習慣の不気味な力—『サイラス・マーナー』における「織ること」とは—	「英国小説研究」第20冊	英潮社、pp.165-81.
2001.08.10	西山史子	進歩へのためらい— <i>Daniel Deronda</i> における衰退のパラダイム	神戸英米論叢	第15号、神戸英米文学会、pp. 83-95.
2001.09.29	閑田朋子	"The Sad Fortunes of the Rev. Amos Barton" 試論—歪んだ鏡の歪んだ像—	研究紀要	第62号、日本大学文理学部人文科学研究所、pp. 53-66.
2001.11.22	鶴川 雅江	George Eliot: <i>Scenes of Clerical Life</i> , "Janet's Repentance"—装うということ—	「ジョージ・エリオット研究」第三号	日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-14.
2001.11.22	寺西雅之	エリオット小説への文体論的アプローチ：『ダニエル・デロンダ』に見られる「葛藤」と「ポリフォニー」の形態	「ジョージ・エリオット研究」第三号	日本ジョージ・エリオット協会、pp. 15-28.
2001.12.24	J. B. Jones	Metaphorical Thought in George Eliot's Novels	「駒沢女子大学研究紀要」第8号	駒沢女子大学、pp. 103-43.
2001.12.25	泉 忠司	"The Sad Fortunes of the Rev. Amos Barton" 第1章における視覚と科学	「artes liberales」第21号	日本工業大学共通系語学・文学教室、pp. 1-5.
2001.12.25	嶋田貴美子	The Sad Fortunes of the Reverend Amos Barton: George Eliot の小説における gossip, rumor の働きについて(1)	「上田女子短期大学紀要」第25号	上田女子短期大学、pp. 107-20.
2001.12.30	手塚リリ子	<i>Felix Holt</i> における聴覚の世界	「英文学思潮」第74巻	青山学院大学英文学会、pp. 69-93.
2002.02.15 (平成14年)	中山奈々	芸術（絵画、肖像画、舞台）に象徴される女性のイメージとヒロインの関係について—『ヴィレット』、『ミドルマーチ』を中心に—	「SELLA」第31号	白百合女子大学英語英文学会、pp. 125-34.
2002.02.28	大野直美	『サイラス・マーナー』—「孤独」についての—考察—	「東洋大学大学院紀要」第38集	東洋大学大学院、pp. 315-22.
2002.02.28	大嶋浩	George Eliot の3編の詩と宗教	「兵庫教育大学研究紀要」第22巻第2分冊	兵庫教育大学、pp. 31-46.
2002.03.	竹熊尚子	イニシエーションとしてみの子育て—Silas Marner の〈自己実現〉—	「主流」第63号	同志社大学英文学会、pp. 47-65.
2002.03.01	Tomoko Kanda (閑田朋子)	The Case for Arthur Donnithorne in <i>Adam Bede</i>	「ほらいずん」第34号	早稲田大学英米文学研究会、pp. 1-17 (表紙からの通し頁数でいえば pp. 60-44).
2002.03.10	谷田恵司	『アダム・ビード』における病	「英米文学」第62号	立教大学文学部英米文学科、pp. 133-48.
2002.03.25	閑田朋子	<i>Scenes of Clerical Life</i> における時代設定・時間設定	「ふぉーちゅん」第13号	新生言語文化研究会、pp. 61-68.
2002.03.31	泉 忠司	<i>The Mill on the Floss</i> 試論—個人と社会—	「英文学論叢」第50巻	日本大学英文学会、pp. 57-71.

2002.07.01	窪田憲子	“Happy Family”を覆う影 — George Eliot, <i>Silas Marner</i> と Sensation Novel	言語文化研究所報	第13号、津田塾大学言語文化研究所、pp. 16-25.
2002.09.29	原 公章	解釈という病— <i>Silas Marner</i> の一局面	「研究紀要」第64号	日本大学文理学部人文科学研究、pp. 37-51.
2002.11.22	織田元子	いったいどれほどアーウィン氏はヘティに冷たいのか—サザランドのアーウィン氏論に就いて	「ジョージ・エリオット研究」第四号	日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-15.
2002.11.22	大竹麻衣子	<i>Silas Marner</i> における共同体の神話	「ジョージ・エリオット研究」第四号	日本ジョージ・エリオット協会、pp. 17-30.
2002.11.22	Yoko Nagai (永井容子)	A Gift of Integrity: Affinity between George Henry Lewes and George Eliot	「ジョージ・エリオット研究」第四号	日本ジョージ・エリオット協会、pp. 47-61.
2002.11.22	谷田恵司	『サイラス・マーナー』における貨幣と病	「ジョージ・エリオット研究」第四号	日本ジョージ・エリオット協会、pp. 31-46.
2002.11.30	横山孝一	トムの物語として読む『フロス河の水車場』—語りの問題点について—	<i>The New Perspective</i> (新英米文学研究)	第33巻秋/冬号(総合176号)、新英米文学会、pp. 58-65.
2002.12.	会田瑞枝	George Eliot: 劇詩Armgartにおけるメッセージ	「サイコアナリティカル英文学論叢」第23	サイコアナリティカル英文学会、pp. 59-73.
2002.12.	池園 宏	力と葛藤— <i>Felix Holt, the Radical</i> における人間関係	「英語と英米文学」第37号	山口大学、pp. 81-99.
2003.01. (平成15年)	村山晴穂	George Eliot and the Bible	PhD Thesis	The University of New Castle upon Tyne (& The British Library)
2003.01.05	阿部美恵	『サイラス・マーナー』にみる女性像	実践英文学	第55号、実践英文学会、pp. 101-10.
2003.02.01	谷田恵司	ボブの親指—『フロス河の水車場』における投資	「東京家政大学研究紀要」第43集(1)人文社会科学	東京家政大学、pp. 25-33.
2003.02.15	天野みゆき	ジョージ・エリオットと帝国主義	「広島女子大学国際文化学部紀要」第11号	県立広島女子大学、pp. 3-17.
2003.02.20	村瀬順子	『ダニエル・デロンダ』におけるユダヤ主義とフェミニズム	大谷學報	第八十二巻第一号、大谷学会(大谷大学内)、pp. 1-19.
2003.02.25	片岡 信	『フェリックス・ホルト』におけるラディカリズムの限界	聖心女子大学論叢	第100集、聖心女子大学、pp. 21-38.
2003.02.28	大野直美	『アダム・ビード』—「苦悩」をめぐって—考察—	「東洋大学大学院紀要」第39集	東洋大学大学院、pp. 395-402.
2003.03.	Nobuyoshi Saito (斎藤延喜)	Women in the Dark: Three Berthas and Their Blindness	同志社大学英語英文学研究	75号、同志社大学人文学会、pp. 81-110.
2003.03.01	鮎沢乗光	<i>Silas Marner</i> 試論—奇跡の小説化をめぐって—	「英米文学評論」第49巻	東京女子大学英米文学研究会、pp. 15-32.

2003.03.10	岡田俊之輔	信仰、義務、仕事—英文學に於ける世俗化—	「英文学」第八十五号	早稲田大学英文学会、pp. 1-17.
2003.03.10	水口裕子	『ミドルマーチ』における女性の生き方	国際文化学科研究年誌	第10号、金沢学院大学国際文化学科研究室、pp. 15-32.
2003.03.31	江澤美月	19世紀イギリス文学におけるイタリア美術の果たした役割—ジョージ・エリオットの『ロモラ』を中心に	「人間文化研究年報」第26号	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科、pp. 83-91.
2003.03.31	武田尚子	『ダニエル・デロンダ』における〈まなざし〉と〈支配〉	南山英文学	第27号、南山英文学会、pp. 35-48.
2003.03.31	中島絢子	The Divisions Brought by the Flux of the Changing World in <i>The Mill on the Floss</i>	<i>Kanazawa English Studies</i> , 第24号	金沢大学英文学会、pp. 105-20.
2003.09.	寺西雅之	Polyphony and Focalization in a Literary-historical Context: A Stylistic Analysis of <i>Middlemarch</i> , <i>Nostromo</i> and <i>Herzog</i>		(リーズ大学博士論文、2003年9月提出)
2003.11.20	Masako Sugita	George Eliot's Jewish World in <i>Daniel Deronda</i> and Jews' Response	<i>The Tsuda Review</i>	No. 48, Tsuda College, pp. 1-21.
2003.11.20	Yukari Tamazaki	The Map of a Wandering Estate: George Eliot's Conception of "Klezmer" in <i>Daniel Deronda</i>	<i>The Tsuda Review</i>	No. 48, Tsuda College, pp. 23-41.
2003.11.20	富田成子	George Eliotの修業時代— <i>The Westminster Review</i> の編集を中心に—	「ヴィクトリア朝文化研究」第1号	日本ヴィクトリア朝文化研究学会、pp. 62-76.
2003.11.22	天野みゆき	ジェンダー規範の転換の可能性を求めて—エリオットとウルフによる反復とずらし—	「ジョージ・エリオット研究」第五号	日本ジョージ・エリオット協会、pp. 13-27.
2003.11.22	Masako Sugita	George Eliot's Jewish World in <i>Daniel Deronda</i> and Gentiles' Response	「ジョージ・エリオット研究」第五号	日本ジョージ・エリオット協会、pp. 29-44.
2003.12.10	SHIOKAWA, Chihiro (塩川千尋)	George Eliot's "Brother Jacob": An Experimental Story for the Writing of the Novel (Part II)	「成城文藝」184	成城大学、pp. 102-76.
2003.12.24	小野ゆき子	『サイラス・マーナー』の主人公から学ぶ高齢期の生きがいについて	「人文研究」第151集	神奈川大学、pp. 53-78.
2004.01.15 (平成16年)	山田章則	人生模様を綾織る人たち—『サイラス・マーナー』が意味するもの	「耕」5号	
2004.01.31	嶋田貴美子	The Sad Fortunes of the Reverend Amos Barton: George Eliotの小説におけるgossip, rumorの働きについて(2)	「上田女子短期大学紀要」第27号	上田女子短期大学、pp. 53-66.
2004.02.01	谷田恵司	金貨と砂糖—ジョージ・エリオットの「兄ジェイコブ」	「東京家政大学研究紀要」第44集(1)人文社会科学	東京家政大学、pp. 45-50.
2004.03.	矢野奈々	『ダニエル・デロンダ』における水のイメージについて	「言語・文学研究論集」第4号	白百合女子大学言語・文学研究センター、pp. 65-74.
2004.03.	Yoko Ikeda	A Study on <i>Silas Marner</i> : Regaining the Past	宇部工業高等専門学校研究報告	第50号、宇部工業高等専門学校、pp. 111-16.

2004.03.01	植松みどり	「記憶の場」としての牧師館—『牧師生活の情景』を楽しむ—	「文学研究」三十一号	『文学研究』同人、pp. 40-49.
2004.03.01	菌田美和子	<i>Scenes of Clerical Life</i> と食のエコロジー	「文学研究」三十一号	『文学研究』同人、pp. 50-60.
2004.03.10	小林典郎	『ミドルマーチ』のポリティカル・エコノミー：ジョージ・エリオットの出納帖	「大谷女子大学英語英文学研究」第31号	大谷女子大学英文学会、pp. 21-45.
2004.03.15	AOYAMA Kana (青山加奈)	<i>Adam Bede</i>	「研究紀要」第20号	埼玉純真女子短期大学、pp. 1-10.
2004.03.19	大野直美	「エイモス・バートン牧師の悲運」—「葛藤」のはじまり—	「東洋大学大学院紀要」第40集	東洋大学大学院、pp. 345-52.
2004.03.25	高野秀夫	ジョージ・エリオット作『サイラス・マーナー』：人生の豊かなコミュニケーション	「駒澤短期大学研究紀要」第32号	駒澤短期大学、pp. 259-68.
2004.03.25	福永信哲	George Eliot's Organic Vision as Seen in Rufus Lyon, the Dissenting Minister in <i>Felix Holt, the Radical</i>	「英語英文学研究」第48巻	広島大学英文学会、pp. 1-13.
2004.03.31	五十嵐理佳	新しい英雄のかたち— <i>Daniel Deronda</i> におけるジョージ・エリオットの試み	「稚内北星学園大学紀要」第4号	稚内北星学園大学、pp. 33-39.
2004.03.31	江澤美月	家父長制批判の試み—『ロモラ』におけるオイディプス物語とアンティゴネー図像—	人間文化研究年報	第27号、お茶の水女子大学大学院人間文化研究科、pp. 96-107.
2004.04.	矢野奈々	『ダニエル・デロンダ』における水のイメージについて	「言語・文学研究論集」第4号	白百合女子大学 言語・文学研究センター、pp. 65-74.
2004.10.15	森 綾子	George Eliot and Her Use of Stoicism in <i>Romola</i> (1863)	「聖心女子大学大学院論集」26(2 27)	聖心女子大学、pp. 218-197.
2004.10.25	斉藤健太郎	『ミドルマーチ』の3つの結婚に現れた現実認識について	「英米文学研究」第22号	中央大学文学部英米文学会、pp. 77-92.
2004.11.22	富田成子	海辺の生活から生まれたもの—'Recollections of Ilfracombe 1856'再考	「ジョージ・エリオット研究」第六号	日本ジョージ・エリオット協会、pp. 49-63.
2004.11.22	Shintetu Fukunaga (福永信哲)	Tragic Vision in History as Seen in <i>Felix Holt the Radical</i> —in Focus of the Interplay between Mrs Transome and Esther—	「ジョージ・エリオット研究」第六号	日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-14.
2004.11.22	村山晴穂	『ロモラ』と旧約聖書「イザヤ書」における間テクスト性の研究	「ジョージ・エリオット研究」第六号	日本ジョージ・エリオット協会、pp. 31-48.
2004.11.22	谷田恵司	「ぶん殴って正気に戻してやる」—「ジャネットの改悛」におけるアルコール依存と家庭内暴力	「ジョージ・エリオット研究」第六号	日本ジョージ・エリオット協会、pp. 15-29.
2005.01.20 (平成17年)	廣野由美子	近代の魔女— <i>The Mill on the Floss</i> における異端の表象—	「英文学研究」第八十一巻	日本英文学会、pp. 41-53.



2005.01.31	嶋田貴美子	<i>The Sad Fortunes of the Revarend Amos Barton</i> : George Eliot の小説における gossip, rumorの働きについて (3)	上田女子短期大学紀要	第28号、上田女子短期大学、pp. 101-19.
2005.02.28	山崎富美恵	G. Eliotが見たCasaubonの孤独	<i>Kasumigaoka Review</i>	第11号、福岡女子大学英文学会、pp. 51-70.
2005.03.	Shiho Hashimoto (橋本史帆)	The Predicament of Women in George Eliot's Works: "The Ambition, Desire, and Frustration of Women" (ジョージ・エリオットの小説における女性達の苦境—野心、欲望、怒り—)	言語・文学研究論集	第5号、白百合女子大学言語・文学研究センター、pp. 33-43.
2005.03.	矢野奈々	『アダム・ビード』におけるヘイスロープとヘティ—の「閉塞性」について	言語・文学研究論集	第5号、白百合女子大学言語・文学研究センター、pp. 23-32.
2005.03.22	大野直美	「ギルフィル氏の恋物語」—「反乱」への試み—	東洋大学大学院紀要	第41集、東洋大学大学院、pp. 345-54.
2005.03.25	高野秀夫	ジョージ・エリオット作『ロモラ』—西洋と東洋の心の絆を求めて	駒澤短期大学研究紀要	第33号、駒澤短期大学、pp. 211-19.
2005.03.31	富田成子	<i>Scenes of Clerical Life</i> と George Eliot	甲子園大学紀要 (B) 現代経営学部編	第32号、甲子園大学、pp. 83-92.
2005.03.31	藤田 繁	<i>Daniel Deronda</i> におけるユダヤについて	立正大学大学院紀要	第21号、立正大学大学院文学研究科、pp. 1-37.
2005.03.31	Yan Guo	Inward Impulse and Outward Fact: Maggie's Fate in <i>The Mill on the Floss</i>	川内レビュー	第4号、東北大学英語文化比較研究会、pp. 42-59.
2005.05.01	廣野由美子	『サイラス・マーナー』—お伽噺を越えて	英語青年	第151巻、第2号, 研究社、pp. 76-77.
2005.09.30	大嶋 浩	「フィンセント・ファン・ゴッホとジョージ・エリオット」補遺	兵庫教育大学研究紀要	第27巻、兵庫教育大学、pp. 73-86.
2005.11.22	会田端枝	<i>Romola</i> 再考—トポグラフィ—の視点から	ジョージ・エリオット研究	第七号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-20.
2005.11.22	武井暁子	書齋か居間か：教養ある新しい女性としてのロモラの限界	ジョージ・エリオット研究	第七号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 21-36.
2005.11.22	齊藤健太郎	『ダニエル・デロンダ』における芸術—大きな芸術と小さな芸術の間で—	ジョージ・エリオット研究	第七号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 53-67.
2005.11.22	中村祐子	Female <i>Bildungsroman</i> とナラティブ・モード：『ダニエル・デロンダ』における試み	ジョージ・エリオット研究	第七号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 37-50.
2005.12.01	谷 綾子	<i>Adam Bede</i> , George Eliotにおける肉体の発見	九大英文学 ( <i>Cairn</i> 改題)	48号、pp. 53-85.
2006.01.31 (平成18年)	Komiya Ayaka (小宮彩加)	George Eliot's Fantasy on Parenthood: <i>Silas Marner</i> (1861) and <i>Felix Holt: The Radical</i> (1866)	明治大学教養論集	402号、明治大学教養論集刊行会、pp. 21-34.

2006.02.01	谷田恵司	散歩、乗馬、アーチェリーと船遊び—屋外運動から見た『ジェイン・エア』と『ダニエル・デロンダ』	東京家政大学研究紀要	第46集(1)人文社会科学、東京家政大学、pp. 33-42.
2006.03.	矢野奈々	The Figure of the 'Dark Heroine' in "Janet's Repentance"	言語・文学研究論集	第6号、白百合女子大学言語・文学研究センター、pp. 17-26.
2006.03.20	大田美和	ジョージ・エリオットの詩劇「アームガート」("Armgarth")試論	紀要	第210号(文学科 第98号)、中央大学文学部、pp. 127-46.
2006.03.20	大野直美	『牧師たちの物語』—「共感」を求めて—	東洋大学大学院紀要	第42集、東洋大学大学院、pp. 319-28.
2006.03.25	高野秀夫	『アダム・ビード』—ヘティの本性と悲哀：慈悲—	駒澤短期大学研究紀要	第34号、駒澤短期大学、pp. 161-74.
2006.03.28	大嶋 浩	日本におけるGeorge Eliot文献書誌：明治・大正期（翻訳・書物編）	兵庫教育大学研究紀要	第28巻、兵庫教育大学、pp. 73-82.
2006.03.31	嶋田貴美子	The Sad Fortunes of the Reverend Amos Barton : George Eliot の小説におけるgossip, rumorの働きについて(4)	紀要	第二十九号、上田女子短期大学、pp. 53-67.
2006.03.31	吉野啓子	ジョージ・エリオットの「サイラス・マーナー」における象徴的手法の一考察	京都ノートルダム女子大学研究紀要	第36号、京都ノートルダム女子大学、pp. 87-100.
2006.03.31	渡辺千枝子	『アダム・ビード』(George Eliot)の成功の秘密—『親和力』(Goethe)との関連	研究紀要	第10号、常盤大学国際学部、pp. 19-35.
2006.05.12	福永信哲	「R. W. マッカイ著『知性の進歩』批評」に見るジョージ・エリオットの聖書批評—信仰と懐疑のはざま—	キリスト教文学研究	第23号、日本キリスト教文学会、pp. 123-33.
2006.05.12	村山晴穂	ジョージ・エリオットの『サイラス・マーナー』論—苦難と自己正当化をめぐるのヨブ記の引喩—	キリスト教文学研究	第23号、日本キリスト教文学会、pp. 113-22.
2006.05.20	大田美和	アルカリシをジョージ・エリオットのプロットからいかにかに救い出すか？—21世紀に読む『ダニエル・デロンダ』	英国小説研究	第22冊、英潮社、pp. 100-25.
2006.07.01	阿久根政子	サイラス・マーナー—人間性への回復	久留米信愛女学院短期大学研究紀要	第29号、久留米信愛女学院短期大学、pp. 7-15.
2006.09.10	岩田託子	19世紀摂酒/節酒と <i>Scenes of Clerical Life</i>	第78回大会Proceedings	日本英文学会、pp. 134-36.
2006.09.30	大嶋 浩	日本におけるGeorge Eliot文献書誌：明治・大正期（新聞・雑誌編）	兵庫教育大学研究紀要	第29巻、兵庫教育大学、pp. 59-70.
2006.11.22	大嶋 浩	"Woman in France: Madame de Sablè"とMargaret Fuller and Mary Wollstonecraft": George Eliot の女性教育論と人間観	ジョージ・エリオット研究	第八号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 17-32.

2006.11.22	富田成子	"Silly Novels by Lady Novelists"に関する一考察	ジョージ・エリオット研究	第八号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 33-45.
2006.11.22	西山史子	逍遙者から見た風景の変容—"Natural History of German Life"考	ジョージ・エリオット研究	第八号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-16.
2006.11.22	矢野奈々	『アダム・ビード』におけるヘティと水のイメージ	ジョージ・エリオット研究	第八号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 47-61.
2007.02.28 (平成19年)	大嶋 浩	日本におけるGeorge Eliot文献書誌：明治・大正期（新聞・雑誌編[続]）	兵庫教育大学研究紀要	第30巻、兵庫教育大学、pp. 67-78.
2007.03.	Shinsuke Hor	A Study of Dinah Morris and Hetty Sorrel: Sexual Powers and Social Powers in <i>Adam Bede</i>	英語英文学論叢	第28号、日本大学大学院英語英文学研究会、pp. 37-57.
2007.03.01	谷 綾子	拡大された自己— <i>Adam Bede</i> における他者との連帯	九大英文学	49号、九州大学大学院英語学・英文学研究会、pp. 1-16.
2007.03.15	福永信哲	Biblical Criticism in George Eliot's "Peter von Bohlen's <i>Introduction to the Book of Genesis</i> "	岡山大学教育学部研究集録	第134号、岡山大学教育学部、pp. 113-18.
2007.03.20	Tomomi SAKAMAKI	A Desperate Romantic: Psyche and Psychic Vision in "The Lifted Veil"	Paulownia Review	第13号、大東文化大学大学院文学研究科英文学専攻、pp. 41-47.
2007.05.01	阿部公彦	ジョージ・エリオットの「ですます」調	英語青年	5月号、第153巻第2号、pp. 19-24.
2007.05.01	Masami Nakayama	Multiple Negation in Nineteenth-Century English; As Seen in Victorian Novels	近代英語研究	第23号、近代英語協会、pp. 79-97.
2007.06.01	原 公章	〈アンケート〉この人物がいい：ターシャス・リドゲイト（ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』）	英語青年	6月号、第153巻第3号、p. 153.
2007.06.01	廣野由美子	「嫌な女」の造形—ジェイン・オースティン vs. ジョージ・エリオット	英語青年	6月号、第153巻第3号、pp. 132-33.
2007.09.28	Kenichi Kurata (倉田賢一)	The Art of Hunger in <i>The Mill on the Floss</i>	リーディング	第28号、東京大学大学院英文学研究会、pp. 30-36.
2007.09.30	阿部美恵	「異父兄弟」について—「兄ジェイコブ」との関係において	ギヤスケル論集	第17号、日本ギヤスケル協会、pp. 9-17.
2007.09.30	大嶋 浩	日本におけるジョージ・ヘンリー・ルイス文献書誌	兵庫教育大学研究紀要	第31巻、兵庫教育大学、pp. 57-69.
2007.11.01	Masako Matsuda	Corpus and Literary Criticism: An Analysis of <i>Tess of the d'Urbervilles</i> Using Concordancers	総合環境研究	第10巻第1号、長崎大学環境科学部、pp. 35-44 ; <i>Middlemarch</i> との比較を含
2007.11.22	天野みゆき	ジョージ・エリオットと帝国意識—『ダニエル・デロンダ』と『テオフラストス・サッチの印象』の文化的意義	ジョージ・エリオット研究	第九号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-16.
2007.11.22	大野直美	不幸な夫婦と牧師の物語—「ジャネットの悔悟」再考	ジョージ・エリオット研究	第九号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 17-29.

2007.11.22	谷 綾子	"Janet's repentance"における神と自然の融合—自然との近似の関係における感情の力	ジョージ・エリオット研究	第九号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 31-44.
2007.11.22	藤原知予	悲劇小説としての可能性—『アダム・ビード』から『ミドルマーチ』へ—	ジョージ・エリオット研究	第九号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 45-60.
2007.12.10	大田美和	ジェンダーで読むジョージ・エリオットの小説『ダニエル・デロンダ』（特集：「ジェンダーと文学」）	世界文学	第106号、世界文学会、pp. 1-7.
2007.12.10	林 完枝	『ダニエル・デロンダ』、転移と転生	明治学院大學英米文学・英語学論叢	第120号、明治学院大学文学会、pp. 51-79.
2007.12.25	吉田良夫	ジョージ・エリオットの足跡を訪ねて	熊本学園大学 文学・言語学論集	第14巻第2号（通巻28号）、熊本学園大学 文学・言語学論集編集委員会、pp. 119-34.
2008.02.25 (平成20年)	福永信哲	『ミドルマーチ』に見る意味探求のプロセス	岡山大学教育学部研究集録	第137号、pp. 91-101.
2008.02.28	濱 奈々恵	ジョージ・エリオットの実験—「引き上げられたヴェール」でみる全知の悲劇—	KASUMIGAOKA REVIEW	第14号、福岡女子大学英文学会、pp. 15-28.
2008.03.	矢野奈々	ジョージ・エリオットの小説における「黒服」の持つ意味	言語・文学研究論集	第8号、白百合女子大学言語・文化研究センター、pp. 25-33.
2008.03.10	藤田眞弓	Adam Bede 再考—なぜHettyは救われなかったのか—	英米文学	Vol. LII, Ser. No. 76、関西学院大学英米文学会、pp. 1-16.
2008.03.15	齊木愛子 (Aiko SAIKI)	The Role of Money in <i>Silas Marner</i>	熊本大学英語英文学	第51号、熊本大学英文学会、pp. 37-53.
2008.03.25	村山晴穂	ジョージ・エリオットの『アダム・ビード』にみる自己愛、愛他心、及び愛情	三育学院短期大学紀要	三育学院短期大学、第37号、pp. 16-36.
2008.03.30	高野秀夫	G. エリオット作『急進主義者、フィークス・ホルト』の研究—とランサム夫人：“愛”“慈悲”：魂の言語	駒澤大学総合教育研究部紀要	第2号、駒澤大学総合教育研究部、pp. 277-89.
2008.03.31	富田成子	George Eliotと評論活動	甲子園大紀要	第35号、甲子園大学、pp. 1-5.
2008.07.01	阿部公彦	英語文章読本 第4回 強さ—ジョージ・エリオット『ダニエル・デロンダ』—	英語青年	7月号、第154巻第4号、研究社、pp. 33-37.
2008.09.30	大嶋 浩	日本の作家等とジョージ・エリオット（書誌）	兵庫教育大学研究紀要	第33巻、兵庫教育大学、pp. 73-84.
2008.09.30	杉田雅子	『ダニエル・デロンダ』におけるユダヤ人のパレスチナ復帰—その系譜と意味	群馬パース大学紀要	第7号、群馬パース大学、pp. 207-19.
2008.11.22	福永信哲	アンティヒーローとしてのカソーボン—『ミドルマーチ』にみるジョージ・エリオットのロマン派的ヴィジョン	ジョージ・エリオット研究	第十号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-16.

2008.11.22	木島菜葉子	The Portrait of Dorothea and her Emotional Landscapes: Analysis of Visual Passages in <i>Middlemarch</i>	ジョージ・エリオット研究	第十号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 17-36.
2008.11.22	藤田眞弓	<i>Silas Marner</i> 再読—Eppieの役割を中心に	ジョージ・エリオット研究	第十号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 37-49.
2008.11.22	谷田恵司	二つの結婚— <i>The Spanish Gypsy</i> から <i>Daniel Deronda</i> へ	ジョージ・エリオット研究	第十号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 51-64.
2008.11.22	太田美和	『ダニエル・デロンダ』の断念されたクィア名異性愛物語と偽装されたクィアな物語	ジョージ・エリオット研究	第十号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 65-79.
2008.12.20	池園 宏	<i>Silas Marner</i> における言語の機能	英語と英米文学	第43号、山口大学、pp. 9-26.
2009.02.27 (平成21年)	大嶋 浩	日本の作家等とジョージ・エリオット (書誌) [続]	兵庫教育大学研究紀要	第34巻、兵庫教育大学、pp. 63-75.
2009.02.28	濱 奈々恵	異民族共存への期待と西欧的イデオロギー — George Eliot の劇詩 <i>The Spanish Gypsy</i> (1868)—	KASUMIGAOKA REVIEW	第15号、福岡女子大学英文学会、pp. 69-87.
2009.03.	中島正太	悔悟するトライアン—ジョージ・エリオット「ジャネットの悔悟」に見る「相互の癒し」	文学論叢	第26号、徳島文理大学文学部文学論叢編集委員会、pp. 17-27.
2009.03.	堀 伸介	The Domesticity in <i>The Mill on the Floss</i> — Parlour, Attic, Sickroom—	英語英文学論叢	第30号、日本大学大学院英語英文学研究会、pp. 13-26.
2009.03.14	中山千晴	George Eliot研究 — 作品に潜むギリシャ悲劇の影	和洋女子大学英文学会誌	第43号、和洋女子大学英文学会、pp. 150-66.
2009.03.25	藤原知予	『息子と恋人』の悲劇性再考—『フロス河畔の水車小屋』と『権力への意志』を手がかりに—	D. H. ロレンス研究	第19号、日本ロレンス協会、pp. 13-25.
2009.03.30	高野秀夫	ジョージ・エリオット作『ダニエル・デロンダ』—母と子:仏教説話、捨身飼虎	駒澤大学総合教育研究部紀要	第3号、駒澤大学、pp. 243-51.
2009.03.30	松本三枝子	<i>The Mill on the Floss</i> における Maggie、語り手、George Eliot	愛知県立大学外国語学部紀要. 言語・文学編	第41号、pp. 25-47.
2009.03.31	加藤雅之	12年ぶりに「とぼりの彼方 (The Lifted Veil)」を読み直す	Kobe Miscellany	No. 32、神戸大学英米文学会、pp. 43-58.
2009.09.20	川崎明子	2009年の『ダニエル・デロンダ』—フランクフルト、ホンブルク、マインツ	英米文学	44号、駒沢大学文学部英米文学科、pp. 121-50.
2009.09.20	馬淵恵里	<i>Middlemarch</i> における「女性版教養小説」再構築	第81回大会Proceedings	日本英文学会、pp. 77-79.
2009.11.01	柴田元幸 訳/解説	書き出しで読む「世界文学全集」 第二回 英米女性作家篇	文藝	第48巻第4号、河出書房新社、pp. 316-31; 『ミドルマーチ』が取り上げられている(2009.21)
2009.11.28	池園 宏	"The Lifted Veil"と"Bother Jacob"—主人公の文学性を巡って	ジョージ・エリオット研究	第十一号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-16.

2009.11.28	堀 紳介	Maggie Tulliver's Walk of Physical Space: The Act of Her Will and Sense of Guilt and Privacy	ジョージ・エリオット研究	第十一号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 17-35.
2009.11.28	谷 綾子	Nature Symbolized by Women's Feelings: A Study of George Eliot's <i>Romola</i>	ジョージ・エリオット研究	第十一号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 37-49.
2009.12.15	寺西雅之	The Modes of Polyphony in George Eliot's Novels	英文学研究 支部統合号	第二巻、日本英文学会、pp. 457-66.
2010.03. (平成22年)	吉村エリ	『ギルフィル氏の恋物語』『ジャネットの改悛』における「瞳の力」再考 — 登場人物達の視線を通して	テキスト研究	第6号、テキスト研究学会、pp. 90-102.
2010.03.08	惣谷美智子	George Eliot, "The Lifted Veil" — エリオットの"resource"をめぐって —	研究紀要	No. 48、神戸海星女子学院大学、pp. 45-61.
2010.03.25	富田成子	『サイラス・マーナー』再考：家庭の天使と新しい女	甲子園短期大学紀要	第28号、甲子園短期大学、pp. 83-92.
2010.03.30	松本三枝子	『ミドルマーチ』の諷刺家メアリ・ガース:ポリフォニーとしての『ミドルマーチ	愛知県立大学外国語学部紀要 言語・文学編	第42号、愛知県立大学外国語学部、pp. 59-78.
2010.03.31	福永信哲	ジョージ・エリオットと倫理的ヒューマニズムへの歩み	PERSICA	第37号、岡山英文学会、pp. 13-31.
2010.03.31	吉野啓子	ジョージ・エリオットのサイラス・マーナーについて — 環境と人々を中心に	京都ノートルダム女子大学研究紀要	第40号、京都ノートルダム女子大学、pp. 39-58.
2010.08.18	阿部公彦	名言から読み解く文学 ⑥ ジョージ・エリオット『サイラス・マーナー』	NHKテレビテキスト ギフト～E名言の世界～	9月号(第1巻第6号)、日本放送出版会、pp. 118-21.
2010.11.26	吉村エリ	瞳で語るヒロイン — "Mr Gilfil's Love-Story"のカタリーナの場合	ジョージ・エリオット研究	第十二号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-14.
2010.11.26	藤原知予	マギーの諦めとショーペンハウアー哲学	ジョージ・エリオット研究	第十二号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 15-29.
2010.11.26	木下未果子	Romolaに託された可能性 — 「親密性の領域」で生きる	ジョージ・エリオット研究	第十二号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 31-45.
2010.12.10	斉藤健太郎	『ワイルドフェル・ホールに住人』に関する一考察 — アン・ブロンテからジョージ・エリオットへ —	中央英米文学	第四十四号、中央英米文学会、pp. 4-18.
2010.12.20	池園 宏	<i>The Mill on the Floss</i> と <i>Jane Eyre</i> — 二つの自伝的教養小説を巡って	英語と英米文学	第45号、山口大学文理学部英米文学科、pp. 39-51.
2011.02.28 (平成23年)	濱 奈々恵	流れと戦う少女Maggie— <i>The Mill on the Floss</i> (1860)における洪水と死について —	Kasumigaoka Review	No. 17、福岡女子大学英文学会、pp. 73-89.
2011.03.	中島正太	「幼児殺し」にみる19世紀のイギリス医療問題 — ジョージ・エリオットの『アダム・ビード』を中心に	文学論叢	第28号、徳島文理大学文学部文学論叢編集委員会、pp. 1-9.
2011.03.01	平出昌嗣	理想としてのLydgateとDorotheaの結婚 — George Eliotの <i>Middlemarch</i> —	千葉大学教育学部研究紀要	第59巻、千葉大学教育学部、pp. 207-12.
2011.03.15	香川由紀子	イギリス小説に描かれた女性の手仕事— <i>Vanity Fair</i> , <i>Adam Bede</i> , <i>Middlemarch</i> , <i>The Mill on the Floss</i>	東京女子大学紀要論集	第62巻第2号、東京女子大学、pp. 193-208.

2011.03.15	倉田賢一	Reading Proust with George Eliot	東京藝術大学音楽学部紀要	第36集、東京藝術大学音楽部、pp. 88-102.
2011.03.31	今泉瑞枝	風刺家ジョージ・エリオット — 共感の世界から笑いの世界へ —	文学研究	第三十七号、『文学研究』同人、pp. 6-21.
2011.03.31	藪田美和子	ジョージ・エリオットの『人さまざま』 — 『テオフラストス・サッチの印象』を読む	文学研究	第三十七号、『文学研究』同人、pp. 22-35.
2011.03.31	山口みどり	「宗教的家族企業」の誕生 — ジョージ・エリオット『牧師館物語』を通してみる国教会の変化	大東文化大学紀要〈人文科学〉	第四十九号、大東文化大学、pp. 1-10.
2011.03.31	吉村エリ	ヴィクトリア朝理想の女性像への挑戦 — 『フロス河の水車場』のマギーの場合 —	女性学評論	第25号、神戸女学院大学女性学インスティテュート、pp. 147-62.
2011.05.30	金丸千雪	G. エリオット『フロス河の水車場』(1860)論 — E. M. フォスターの芸術観から読む	IMAGINATION	Vol. VIII、東京教学社、pp. 22-36.
2011.06.25	福永信哲	ジョージ・エリオットにみる科学の受容と懐疑 — 『ミドルマーチ』医師理士ゲートのテキストを読む — その1	岡山大学大学院教育学研究科研究集録	第147号、岡山大学大学院教育学研究科、pp. 27-34.
2011.08.05	廣野由美子	ギヤスケルとエリオット — 『ルース』と『アダム・ビード』に見られる作家の道徳的姿勢 —	ギヤスケル論集	第21号、日本ギヤスケル協会、pp. 61-73.
2011.10.25	福永信哲	ジョージ・エリオットにみる科学の受容と懐疑 — 『ミドルマーチ』医師理士ゲートのテキストを読む — その二	岡山大学大学院教育学研究科研究集録	第148号、岡山大学大学院教育学研究科、pp. 109-18.
2011.11.26	吉村エリ	抵抗する瞳 — 視線にみるマギーの葛藤 —	ジョージ・エリオット研究	第十三号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-14.
2011.11.26	濱 奈々恵	<i>Felix Holt, the Radical</i> における帝国意識への懐疑的な視線	ジョージ・エリオット研究	第十三号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 15-27.
2011.11.26	Shinsuke Hori	<i>Felix Holt, the Radical: The Non-Visualisation of the Physical World with Ineffective Visual Ability and its Public Image</i>	ジョージ・エリオット研究	第十三号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 29-41.
2012.03.01 (平成24年)	吉田一穂	『サイラス・マーナー』における自己と他者	近畿大学教養・外国語教育センター紀要. 外国語編	2巻2号、pp. 13-23.
2012.03.15	栗野修司	サイラスはヨブか — タイポロジーで読む『サイラス・マーナー』 —	英文学論集	9号、佛教大学英文学会、pp. 1-18.
2012.03.16	鷺見八重子	〔最終講義〕 英文学と「洪水の年」 — G. エリオットからM. アトウッドへ —	和洋女子大学英文学会誌	第46号、和洋女子大学英文学会、pp. 191-205.
2012.03.26	斉藤健太郎	人間同士の繋がり — 『ワイルドフェル・ホールの住人』からジョージ・エリオットへ —	成城イングリッシュ モノグラフ (Seijo English Monographs)	No. 43 (青木 健教授退職記念号)、成城大学大学院文学研究科、pp. 123-38.
2012.03.31	福永信哲	ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』にみる否定表現 — ジェーン・オースティン『エマ』と比較して	PERSICA	第39号、岡山英文学会、pp. 27-42.
2012.05.30	阿部美恵	19世紀イギリス女性作家と異文化 — エリザベス・ギヤスケルとジョージ・エリオットを中心に —	文化教育研究所 平成22・23年度研究年報	第3号 (平成22・23年度合併号)、松蔭大学文化教育研究所、pp. 41-45.

2012.07.27	福永信哲	『ダニエル・デロンダ』に見る解体と再建の試み — ユダヤ人物語にみるジョージ・エリオットのヴィジョン	岡山大学大学院教育学研究科研究集録	第150号、岡山大学大学院教育学研究科、 pp. 35-43.
2012.11.22	惣谷美智子	“The Sad Fortunes of the Reverend Amos Barton”の喜劇性 — Jane AustenからGeorge Eliotへの“Continuity”試論	ジョージ・エリオット研究	第十四号、日本ジョージ・エリオット協会、 pp. 1-13.
2012.11.22	大嶋 浩	George Eliotとキリスト教文化 — 予型論/類型論を中心にして	ジョージ・エリオット研究	第十四号、日本ジョージ・エリオット協会、 pp. 15-27.
2012.11.22	木村正子	<i>The Mill on the Floss</i> <i>The Moorland Cottage</i> における母娘関係の比較	ジョージ・エリオット研究	第十四号、日本ジョージ・エリオット協会、 pp. 29-42.
2012.11.22	中島正太	文学作品の「映像化」における「ポリフォニー」の可能性 — 2つの <i>The Mill on the Floss</i> をめぐって	PERSICA	第十四号、日本ジョージ・エリオット協会、 pp. 43-56.
2012.11.22	Ayako Tani	Maggie's Struggle against the 'Artificial Vesture of Life'	ジョージ・エリオット研究	第十四号、日本ジョージ・エリオット協会、 pp. 57-70.
2012.12.01	手島伸一	岡田美津とブロンテ文学	ブロンテ・スタディーズ	第5巻第4号、日本ブロンテ協会、 pp. 35-53; ; 「4. 岡田美津とブロンテ文学へのかかわり」の中の「(4) 『フロス河の水車場英文学叢書』にみられるシャーロット像」 (pp. 48-51)
2012.12.01	永井容子	2011年度ブロンテ・デイ講演要旨 自然と真実 — シャーロット・ブロンテとジョージ・ヘンリー・ルイス	ブロンテ・スタディーズ	第5巻第4号、日本ブロンテ協会、 pp. 139-40; エリオットへの言及は pp. 139, 140.
2013.01.20 (平成25年)	濱 奈々恵	<i>Daniel Deronda</i> におけるユダヤ人との共生 — 結末における旅立ちについて—	英文学研究 支部統合号	第五巻、日本英文学会、 pp. 31-37 (307-13).
2013.02.25	福永信哲	『ダニエル・デロンダ』22章を読む：オースティンの遺産とエリオットの創造	岡山大学大学院教育学研究科研究集録	第152号、岡山大学大学院教育学研究科、 pp. 11-21.
2013.02.28	谷本佳子	<i>Middlemarch</i> から <i>The Lost Girl</i> へ — イタリアと、解放されたイギリスのヒロインたち	テキスト研究	第9号、テキスト研究会、 pp. 35-48.
2013.02.28	濱 奈々恵	蔓延する帝国意識と覆される植民地幻想 — George Eliot の短編“Brother Jacob”を中心にして	テキスト研究	第9号、テキスト研究会、 pp. 21-34.
2013.07.25	福永信哲	『ダニエル・デロンダ』グエンドレン物語：キリスト教の遺産と科学の和解	岡山大学大学院教育学研究科研究集録	第153号、岡山大学大学院教育学研究科、 pp. 47-57.
2013.11.11	松村昌家	ジョージ・エリオットとディケンズ — 共感と親交の4年 —	ジョージ・エリオット研究	第十五号、日本ジョージ・エリオット協会、 pp. 1-17.
2013.11.11	濱 奈々恵	光を失った帝国のディスコースと皮肉なギャンプル — <i>Daniel Deronda</i> のGwendolenを中心にして—	ジョージ・エリオット研究	第十五号、日本ジョージ・エリオット協会、 pp. 19-33.
2013.11.11	永井容子	落ち合う二つの流れ — ジョージ・ヘンリー・ルイスとジョージ・エリオット	ジョージ・エリオット研究	第十五号、日本ジョージ・エリオット協会、 pp. 1-17.



2014.02.25 (平成26年)	福永信哲		岡山大学大学院教育学研究科研究集録	第155号、岡山大学大学院教育学研究科、pp. 57-66.
2014.02.28	廣野由美子	ジョージ・エリオット文学における〈啓蒙〉の行方ー前期三作品に見る宗教の再構築	英文学評論	第86集、京都大学大学院人間・環境学研究科英語部会、pp. 1-26.
2014.03.01	Michiko Soya	The Comic in 'The Sad Fortunes of the Reverend Amos Barton': 'Continuity' from Jane Austen to George Eliot	研究紀要	No. 52、神戸海星女子学院大学、pp. 17-24；『ジョージ・エリオット研究』第14号（2012）掲載論文の英語版
2014.03.14	松本三枝子	エリザベス・ギヤスケルとジョージ・エリオットのロンドン	愛知県立大学大学院国際文化研究科論集	第15号、愛知県立大学大学院国際文化研究科、pp. 45-63.
2014.03.14	杉浦千秋	『フロス河畔の水車場』と『鐘』における女性たちの道徳的目覚め	愛知県立大学大学院国際文化研究科論集	第15号、愛知県立大学大学院国際文化研究科、pp. 65-84.
2014.03.30	中島正太	『サイラス・マーナー』はいかにして『エビーのねがい』になったのかージョージ・エリオットと日本の翻訳児童文学	比較文化研究所年報	第30号、徳島文理大学比較文化研究所年報編集委員会、pp. 1-11.
2014.08.01	福永信哲	『ミドルマーチ』にみる死生観：ドロシア・カソーボンの結婚生活と死別	PERSICA	第41号、岡山英文学会、pp. 15-29.
2014.09.05	谷 綾子	自由という名の牢獄、義務という名の解放	龍谷理工ジャーナル	Vol. 26-2、龍谷大学理工学会、pp. 17-21.
2014.11.11	石井昌子	Tom Tulliverの悲劇ー <i>The Mill on the Floss</i> における名誉欲と家族愛ー	ジョージ・エリオット研究	第十六号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-14.
2014.11.11	松本三枝子	専門職の意味と役割ー <i>Deerbrook</i> と <i>Middlemarch</i> における医者とガヴァネスー	ジョージ・エリオット研究	第十六号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 15-25.
2014.11.11	谷 綾子	Duality in <i>Daniel Deronda</i> : The Regeneration of Gwendolen and Death of Grandcourt	ジョージ・エリオット研究	第十六号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 27-38.
2014.11.11	小林英里	ナショナリズムへと置換されるフェミニズムー『ダニエル・デロンダ』論ー	岡山大学大学院教育学研究科研究集録	第十六号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 39-53.
2014.12.22	北村 薫	うた合わせー四十 祈りー	小説新潮	十二月号（第六十八巻第十二号、通巻八四七号）、新潮社、pp. 302-04；『フロス河の水車場』に言及
2015.02.27 (平成27年)	矢野清一	ジョージ・エリオットと田園	北九州市立大学大学院紀要	第28号、北九州市立大学大学院、pp. 137-60.
2015.03.	渡久山幸功	Advocating and Subverting Stereotypes of Women: An Examination on Victorian Marriages and Feminist Perspective in <i>Middlemarch</i>	沖縄キリスト教大学院大学論集	第11号、沖縄キリスト教大学院大学人文学部、pp.1-11.
2015.04.23	谷 綾子	『破滅の町』からの脱出ー <i>Silas Marner</i> と <i>The Old Curiosity Shop</i> における二人の子どもたち	龍谷紀要	第36巻第2号、龍谷大学龍谷紀要編集会、pp. 111-18.

2015.07.31	Kasako ISHII	Conflicts of Sympathies: Maggie Tulliver in <i>The Mill on the Floss</i>	<i>Zephyr</i>	第27号、京都大学大学院英文学研究会、pp. 1-29.
2015.08.20.	倉田賢一	『ルース』を読むジョージ・エリオット	ギヤスケル論集	第25号、日本ギヤスケル協会、pp. 45-56.
2015.08.24	阿川大樹	ことば遍路	徳島新聞	第25667号、日刊、徳島新聞社、p. 6；「スペインのジプシー」からの一節（「ことばは翼を持つが、思うところに飛ばない」( <i>The Spanish Gypsy</i> , Book 3)が引用されている(p. 6)。
2015.11.11	川北 稔	プライベート・アクトの世界—産業革命と地主社会—	ジョージ・エリオット研究	第十七号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-14；エリオットへの言及はpp. 1, 11.
2015.11.11	濱 奈々恵	子どもたちの帝国意識— <i>The Mill on the Floss</i> における本の影響力—	ジョージ・エリオット研究	第十七号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 15-27.
2015.11.11	天野みゆき	詩と旅と信仰	ジョージ・エリオット研究	第十七号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 29-44.
2016.01.03 (平成28年)	阿川大樹	ことば遍路	徳島新聞	第25796号、日刊、徳島新聞社、p. 7；エリオットの言葉として「空の星になれないなら、せめて家庭の灯になりなさい」が引用されている(p. 7)。
2016.03.31	福永信哲	『アダム・ビード』に表れたジョージ・エリオットの倫理的人道主義のヴィジョン	<i>PERSICA</i>	第43号、岡山英文学会、pp. 1-13.
2016.05.27	阿川大樹	ことば遍路	徳島新聞	第25940号、日刊、徳島新聞社、p. 7；エリオットがミセス・エドワード・バーン＝ジョーンズに宛てた手紙(1857.05.11)の一節「わたしは愛されたい。それだけではなく、それを口に出して伝えてもらいたい」が引用されている(p. 7)。
2016.11.09	高橋裕子	ジョージ・エリオットとイタリア・ルネサンス美術 — 『ロモラ』をめぐって —	ジョージ・エリオット研究	第十八号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-20.
2016.11.09	谷 綾子	<i>Adam Bede</i> における自己実現の旅	ジョージ・エリオット研究	第十八号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 21-34.
2016.11.09	石井昌子	Limits of Sympathy: The Case of Dorothea in <i>Middlemarch</i>	ジョージ・エリオット研究	第十八号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 35-48.

2016.11.09	濱 奈々恵	<i>Middlemarch</i> におけるコスモポリタンの素養 — “fortune”の意味変遷と文化的混淆	ジョージ・エリオット研究	第十八号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 49-64.
2017.03 (平成29年)	木村正子	ナイチンゲールのヴィジョン—女性救済者と瀕死の女性	近代英語研究	第23号、近代英語協会、pp. 79-97.
2017.03.	中島正太	ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』における女性と「殺人」	文学論叢	第34号、徳島文理大学文学部文学論叢編集委員会、pp. 1-16.
2017.03.	藤倉恵子	ハリウエルの「三匹の子豚」の文化史的読解（その2）—AT124話型の英仏類話との関連において	京都産業大学論集. 人文科学系列	第50号、京都産業大学、pp. 245-73 ; エリオットへの言及はpp. 249-50.
2017.06.29		鳴潮	徳島新聞	第26332号、日刊、徳島新聞社、p. 1.
2017.11.09	佐藤エリ	“Janet’s Repentance”における自己の回復と想像力：George Henry Lewesによる知覚の議論を手がかりに	ジョージ・エリオット研究	第十九号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-16.
2017.11.09	堀 紳介	George Eliot’s Three “Recollections” and <i>Romola</i> : Her Realistic Programme, Visual Perception of the Natural, Social and Historical World, and Proto-fiction	ジョージ・エリオット研究	第十九号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 17-33.
2017.11.09	永井容子	Engaging with the Other: The Influence of Feuerbach on <i>Romola</i> and George Eliot’s Later Works	ジョージ・エリオット研究	第十九号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 35-52.
2017.11.09	谷 綾子	Casaubon’s Children: Rebellion against the Father in <i>Middlemarch</i>	ジョージ・エリオット研究	第十九号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 53-63.
2018.01.31 (平成30年)	溝口 薫	19世紀中期までの英国女性教育論の展開と女性の自律について (2)	神戸女学院大学教職センター研究紀要	第1巻第1号、神戸女学院大学教職センター、pp. 47-55.
2018.07.02		鳴潮	徳島新聞	第26694号、日刊、徳島新聞社、p. 1; Mrs. Poyserの発言( <i>Adam Bede</i> , Ch. 53)が引用されている。
2018.12.01	山本史郎	エリオットを訳す—翻訳論から見えてくる風景—	ジョージ・エリオット研究	第二十号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-18.
2018.12.01	中島俊郎	ストランド街の出版文化史	ジョージ・エリオット研究	第二十号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 19-39.
2018.12.01	中島正太	小説を読むことは「危険」か？—『フロス河の水車場』におけるヒロインの読書を検証する—	ジョージ・エリオット研究	第二十号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 41-54.
2018.12.01	Nana Yano (矢野 奈々)	George Eliot’s Dark Heroine—Gwendolen Harleth: Deviation from the “Angel in the House” and the Pursuit of a New Femininity	ジョージ・エリオット研究	第二十号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 55-67.
2019.02.28 (平成31年)	吉田一穂	<i>Daniel Deronda</i> —デロンダによるグエンドレンへの精神的感化とユダヤ教への理解—	人間文化研究	第10号、桃山学院大学総合研究所、pp. 17-40.

2019.05.20 (令和元年)	永富友海	波及するセンセーショナルリズム—『ダニエル・デロンダ』への一道標	英国小説研究	第27冊、英宝社、pp. 29-71.
2019.11.22	Midori Uematsu	A Story of Janet, Mrs. Robert Dempster in <i>Scenes of Clerical Life</i>	ジョージ・エリオット研究	第二十一号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 9-24.
2019.11.22	Hiroshi Oshima	Mr. David Faux, Corrupt Confectioner : George Eliot and Commercial Societies	ジョージ・エリオット研究	第二十一号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 25-49.
2019.11.22	Nanae Hama	Adaptations of “Inkle and Yarico” and Shattered Colonial Illusions in “Brother Jacob,” <i>Felix Holt, the Radical</i> and <i>Daniel Deronda</i>	ジョージ・エリオット研究	第二十一号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 51-72.
2019.11.22	Maho Sakoda	“Two creatures slowly turning to marble” : Sculpturesque Images in George Eliot’s <i>Middlemarch</i> and Edward Burne-Jones’s Painting	ジョージ・エリオット研究	第二十一号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 73-95.
2019.11.22	Shintetsu Fukunaga	A Vision of George Eliot’s Ethical Humanism in the Portrayal of the Bulstrodes in <i>Middlemarch</i>	ジョージ・エリオット研究	第二十一号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 97-121.
2019.11.22	Hiroshi Ebine	“These Things Are a Parable” : Realism and Beyond in George Eliot’s Later Fiction	ジョージ・エリオット研究	第二十一号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 123-45.
2019.11.22	Eri Satoh	The Actress of Real Drama : Gwendolen’s Self in Everyday Performance	ジョージ・エリオット研究	第二十一号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 147-70.
2019.11.22	Yohko Nagai	The Revelatory Mask : Eliot’s Essays and <i>Impressions of Theophrastus Such</i>	ジョージ・エリオット研究	第二十一号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 171-94.
2020.01.14 (令和2年)	窪田憲子	『ロモラ』の二つの視座—歴史ロマンスとして、トラヴェルライティングとして	文学研究	四十号、『文学研究』同人、pp. 119-44.
2020.02.01	向井和美	読書会という幸福 (2) 『サイラス・マーナー』 (ジョージ・エリオット) の読書会	世界	2月号、第九二九号、岩波書店、pp. 247-49.
2020.03.30	秋山 義典	成熟のレトリックと新しい経済活動—ジョージ・エリオット『フロス河の水車場』	文学研究論集	第38号、筑波大学比較・理論文学会、pp. 1-17.
2020.09.30	深澤 俊	『ダニエル・デロンダ』—ジョージ・エリオットの最後の小説	人文研紀要	第96号、中央大学人文科学研究科、pp. 307-20.
2020.11.25	深澤 俊	『ダニエル・デロンダ』を超えて	ジョージ・エリオット研究	第二十二号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-9.
2020.11.25	惣谷美知子	“An Extraordinary Fate”を読む—George Eliot, <i>Middlemarch</i> と Jane Austen, <i>Sense and Sensibility</i>	ジョージ・エリオット研究	第二十二号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 11-26.
2021.02.26 (令和3年)	廣野由美子	「沈黙の彼方」より—George Eliotの劇詩“Armgar t”における声と <i>Middlemarch</i> の語りの方	英文学評論	第93集、京都大学大学院人間・環境学研究科 英語部会、pp. 37-60.
2021.03.11	Miyuki Amano	Edith Wharton’s Response to George Eliot’s <i>Adam Bede</i> : Sympathy and Charity in <i>Summer</i>	県立広島大学人間文化学部紀要	第16号、県立広島大学、pp. 21-31.

2021.03.15	橋川裕之	ジョージ・エリオットのイタリア紀行—フィレンツェ編	早稲田大学高等研究所紀要	第13号、早稲田大学高等研究所、pp. 89-140.
2021.03.31	矢野奈々	George Eliot's heroines and the Dark Lady in Shakespeare's <i>The Sonnets</i>	目白大学人文学研究	第17号、目白大学、pp. 35-47.
2021.04.30	川崎明子	『サイラス・マーナー』における植物—漸進的發展の跳躍的語り	英国小説研究	第28冊、『英国小説研究』同人、英宝社、pp. 48-79.
2021.04.30	新野 緑	ジョージ・エリオットと〈一人称の語り〉—「エイモス・パートナー師の悲運」を中心に	英国小説研究	第28冊、『英国小説研究』同人、英宝社、pp. 29-47.

#### (5)書評関係

発行年月日	著者名	タイトル	掲載誌名	発行所、頁等
2001.09.30 (平成13年)	鈴木美津子	書評：Harry E. Shaw: <i>Narrating Reality: Austen, Scott, Eliot</i>	英文学研究	第78巻第1号、日本英文学会、pp. 52-56.
2002.11.22 (平成14年)	窪田憲子	Nancy Henry, <i>George Eliot and the British Empire</i> (Cambridge: Cambridge University Press, 2002, 182pp.)	ジョージ・エリオット研究	第三号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 63-69.
2001.11.22	富士川和男	Hao Li: <i>Memory and History in George Eliot</i> Macmillan, 2000, 227pp.	ジョージ・エリオット研究	第三号、日本ジョージ・エリオット協会、pp.29-35.
2003.11.22 (平成15年)	田中淑子	Alicia Carroll, <i>Dark Smiles: Race and Desire in George Eliot</i> (Ohio University Press, Athens: 2003, 179 pp.)	ジョージ・エリオット研究	第五号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 45-52.
2004.08.01 (平成16年)	廣野由美子	「新刊書架」の「天野みゆき著『ジョージ・エリオットと言語・イメージ・対話』」	英語青年	8月号、第150巻第5号、研究社、pp. 53-54.
2004.11.22	深沢 俊	Delia da Sousa Correa, <i>George Eliot, Music and Victorian Culture</i> (Palgrave Macmillan, 2003, 255 pp.)	ジョージ・エリオット研究	第六号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 65-69.
2005.09.01 (平成17年)	原 公章	荻野昌利著『歴史を〈読む〉—ヴィクトリア朝の思想と文化』	英語青年	9月号、第151巻第6号、研究社、pp. 46-47.
2005.11.22	原 公章	Bernard J. Paris, <i>Rereading George Eliot, Changing Responses to Her Experiment in Life</i> (Albany, State University of New York Press, 2003, xiii + 220pp.)	ジョージ・エリオット研究	第七号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 65-69.
2006.11.22 (平成18年)	山田晴子	Katherine Hughes, <i>George Eliot, The last Victorian</i> (New York, Cooper Square Press, 2001, xiii + 384 pp.)	ジョージ・エリオット研究	第八号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 63-70.
2017.03 (平成29年)	木村正子	ナイチンゲールのヴィジョン—女性救済者と瀕死の女性	近代英語研究	第23号、近代英語協会、pp. 79-97.
2007.03.01	Kazuko Oguro	Janis McLarren Caldwell, <i>Literature and Medicine in Nineteenth-Century Britain: From Mary Shelley to George Eliot</i> (Cambridge: Cambridge University Press, 2004. xi + 201 pp.)	英文学研究	英文号 48 (2007)、日本英文学会、pp. 86-93.

2007.11.22	大竹麻衣子	Michael Davis, <i>George Eliot and Nineteenth-Century Psychology: Exploring the Unmapped Country</i> (Aldershot: Ashgate, 2006, 216 pp.)	ジョージ・エリオット研究	第九号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 61-67.
2009.11.13 (平成21年)	廣野由美子	荻野昌利著『小説空間を〈読む〉—ジョージ・エリオットとヘンリー・ジェイムズ—』	週刊読書人	第2813号、株式会社読書人、p. 5.
2009.11.28	原 公章	Masayuki Teranishi, <i>Polyphony in Fiction: A Stylistic Analysis of Middlemarch, Nostromo, and Herzog</i> (Oxford: Peter Lang, 2008) 328 pp.	ジョージ・エリオット研究	第十一号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 51-60.
2010.11.26 (平成22年)	廣野由美子	川本静子・原公章(共訳)『ジョージ・エリオット評論と書評』(彩流社, 2010) 479頁	ジョージ・エリオット研究	第十二号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 47-50.
2010.12.01	永富友海	横山茂雄編『危ない食卓—十九世紀イギリス文学にみる食と毒』新人物往来社 2008年 300 pp.	英文學研究	第八十七巻、日本英文学会、pp. 32-36; エリオットへの言及はp. 34-35.
2010.12.01	深沢 俊	荻野昌利著『小説空間を〈読む〉—ジョージ・エリオットとヘンリー・ジェイムズ—』英宝社 2009年 199 pp.	英文學研究	第八十七巻、日本英文学会、pp. 37-40; エリオットへの言及はp. 37-39.
2011.05.20 (平成23年)	海老根 宏	富田成子著『ジョージ・エリオットと出版文化』	週刊読書人	第2889号、p. 8.
2011.06.10	内田能嗣	アナ・K・ナード『ミルトンと対話するジョージ・エリオット』(英宝社)	週刊読書人	第2892号、p. 5.
2011.07.	梅 正行	アナ・K・ナード著『ミルトンと対話するジョージ・エリオット』(辻裕子・森道子・村山晴穂 監訳) / 富田成子著『ジョージ・エリオットと出版文化』	Web英語青年	2011年7月号
2011.11.26	会田瑞枝	Nancy Henry: <i>The Cambridge Introduction to George Eliot</i> . Cambridge: Cambridge University Press, 2008. 129 pp.	ジョージ・エリオット研究	第十三号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 53-59.
2011.11.26	鷺見八重子	富田成子著『ジョージ・エリオットと「出版文化」』南雲堂 2011年	ジョージ・エリオット研究	第十三号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 43-51.
2012.11.22 (平成24年)	西山史子	アナ・K・ナード著 辻裕子・森道子・村山晴穂監訳『ミルトンと対話するジョージ・エリオット』(英宝社、2011年)	ジョージ・エリオット研究	第十四号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 71-81.
2013.11.11 (平成25年)	阿部美恵	『エドワード・ネヴィル G・エリオットの少女期作品とその時代背景』	ジョージ・エリオット研究	第十五号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 47-53.
2013.11.11	福永信哲	『急進主義者フィーリクス・ホルト』	ジョージ・エリオット研究	第十五号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 55-68.

2014.10.03 (平成26年)	廣野由美子	ナンシー・ヘンリー著、内田能嗣他訳『評伝 ジョージ・エリオット』	週間読書人	第3059号、株式会社読書人、p. 5.
2014.11.11	松井豊次	ジョージ・エリオット著 藺田美和子、今泉瑞枝訳『テオフラストス・サッチの印象』（彩流社、2012年、298頁）	ジョージ・エリオット研究	第十六号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 55-64.
2014.11.11	大竹麻衣子	ティム・ドリン著 廣野由美子訳『ジョージ・エリオット』（彩流社、2013年、433頁）	ジョージ・エリオット研究	第十六号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 65-77.
2014.11.11	中島正太	ジョージ・エリオット全集第9巻『スペインのジブシー [他2編]とぼりの彼方、ジェイコブ兄貴』前田淑江、早瀬和栄、大野直美 訳（彩流社、2014年、368+LI）	ジョージ・エリオット研究	第十六号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 79-84.
2015.11.11	田村真奈美	松本三枝子著『闘うヴィクトリア朝女性作家たち エリオット、マーティノー、オリファント』（彩流社、2012年）	ジョージ・エリオット研究	第十七号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 45-52.
2015.11.11	藺田美和子	ジョージ・エリオット全集第1巻『牧師たちの物語』小野ゆき子、池園宏、石井昌子 訳（彩流社、2014年）	ジョージ・エリオット研究	第十七号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 53-61.
2015.11.11	谷田恵司	ジョージ・エリオット全集第5巻『ロモラ』原 公章 訳（彩流社、2014年）	ジョージ・エリオット研究	第十七号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 63-71.
2016.11.09 (平成28年)	永井容子	原公章 著「ジョージ・エリオットとジョージ・ヘンリー・ルイス — <i>Problems of Life and Mind</i> IV, Vにおける <i>Feeling</i> と <i>Duty</i> —」、『イギリス文学の悦び』（大阪教育図書、2014年）1-17頁	ジョージ・エリオット研究	第十八号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 65-71.
2016.11.09	清水伊津代	内田能嗣教授傘寿記念論文集『文藝禮讃』	ジョージ・エリオット研究	第十八号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 73-86.
2016.11.09	玉井 暉	海老根 宏 著「ジョージ・エリオットにおける現実と非現実 — 「これは一つの比喩である」 —」、『一九世紀「英国」小説の展開』（松柏社、2014年）255-77頁	ジョージ・エリオット研究	第十八号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 87-96.
2017.11.09 (平成29年)	兼中裕美	ナンシー・ヘンリー 著 内田能嗣、小野ゆき子、会田瑞枝訳『評伝 ジョージ・エリオット』（英宝社、2014年）251頁	ジョージ・エリオット研究	第十九号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 65-73.
2017.11.09	海老根 宏	ジョージ・エリオット全集 第10巻『詩集』大田美和、大竹麻衣子、谷田恵司、阿部美恵、会田瑞枝、永井容子 訳（彩流社、2014年）200頁	ジョージ・エリオット研究	第十九号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 75-81.
2017.11.09	松本三枝子	June Skye Szirotny, <i>George Eliot's Feminism: "The Right to Rebellion"</i> (Basingstoke: Palgrave Macmillan, 2015), xi+284 pp.	ジョージ・エリオット研究	第十九号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 83-96.
2017.11.09	大嶋 浩	福永信哲著『ジョージ・エリオットの後期小説を読む —キリスト教と科学の葛藤—』（英宝社、2016年）381頁	ジョージ・エリオット研究	第十九号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 97-103.
2018.05.18 (平成30年)		「特集 英語圏文学/研究書のススメ」の中の「共鳴するジョージ・エリオットとヴァージニア・ウルフ：「私」から「私たち」へ」	週刊読書人	第3239号、株式会社読書人、p. 5.

2018.06.		新刊書等のご案内	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第22号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 10.
2018.06.01	彩流社 若田純子	共鳴するジョージ・エリオットとヴァージニア・ウルフ：「私」から「私たち」へ（「Woman's EYE」 vol. 285 〈本のつくり手による新刊紹介〉）	クレヨンハウス通信	Vol. 449、クレヨンハウス、p. 12.
2018.07.20	大谷伴子	武田美保子著『身体と感情を読むイギリス小説：精神分析、セクシュアリティ、優生学』	週刊読書人	第3248号、株式会社読書人、p. 5.
2018.12.01	富田成子	Fionnuala Dillance, <i>Before George Eliot: Marian Evans and the Periodical Press</i> (Cambridge: Cambridge University Press, 2013), ix+270 pp.	ジョージ・エリオット研究	第二十号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 69-80.
2018.12.01	堀 紳介	J. Hillis Miller, <i>Reading for Our Time: Adam Bede and Middlemarch Revisited</i> (Edinburgh: Edinburgh University Press, 2012), 191 pp.	ジョージ・エリオット研究	第二十号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 81-86.
2019.06. (令和元年)		新刊書等のご案内	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第23号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 10-11.
2020.03.31 (令和2年)	新井景子	Maya Higashi Wakana 著 <i>Performing Intimacies with Hawthorne, Austen, Wharton, and George Eliot: A Microsocial Approach</i>	アメリカ文学研究	56号（日文号）、日本アメリカ文学学会、pp. 81-87.
2020.06.30		新刊書等のご案内	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第24号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 8-9.
2020.11.25	佐藤エリ	矢野奈々著『ダーク・ヒロイン—ジョージ・エリオットと新しい女性像』（彩流社、2017年）318頁	ジョージ・エリオット研究	第二十二号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 27-35.
2020.11.25	津田聖子	矢野奈々著『ダーク・ヒロイン—ジョージ・エリオットと新しい女性像』（彩流社、2017年）318頁	ジョージ・エリオット研究	第二十二号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 27-35.
2020.11.25	中島正太	Dermot Coleman, <i>George Eliot and Money: Economics, Ethics and Literature</i> , Cambridge Studies in Nineteenth-Century Literature and Culture (Cambridge UP, 2014), vi+ 242 pp.	ジョージ・エリオット研究	第二十二号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 51-55.

(6)邦訳文献関係				
発行年月日	著者名	タイトル	書名	訳者名、発行所、頁数
1997.12.10 (平成9年)	ハンス・マイヤー著、宇京早苗訳	「ユディットとデリラ」の「IV 選択としてのブルジョアの履歴」の中の「2 ジョージ・エリオットあるいは規律に服させること」及び「シャイロック」の「V ブルジョア小説におけるユダヤ人の登場人物」の中の「4 デロンダ、あるいはシオニズムの変形（ジョージ・エリオットの小説『ダニエル・デロンダ』）」	アウトサイダー:近大ヨーロッパの光と影	講談社学術文庫、講談社、pp. 163-172, 656-63; 他に pp. 62, 120, 126, 157, 160-61, 174, 177, 180, 182-83, 193-94n7, 420, 685nn8-11.
2000.05.25 (平成12年)	E. ショウォールター	4 ジョージ女王	性のアナーキー：世紀末のジェンダーと文化	富山太佳夫、永富久美、上野直子、坂梨健史郎 共訳（エリオットの該当箇所は永富久美訳）、みすず書房、pp. 107-39, 365-67.)



2000.06.20	アンドレ・バーナード	ジョージ・エリオット『フロス川の水車』	あの本この本—名作はこうして生まれた—	前田豊訳、北星堂、pp. 21-22.
2000.11.01	J. ヒリス・ミラー	第四章 書くことを読む—エリオット	読むことの倫理	伊藤誓、大島由紀夫訳、法政大学出版局、叢書・ユニベルシタス 697、pp. 81-109, 179-80 (原注), 187-88 (訳注).
2001.02.20 (平成13年)	イヴ・K・セジウィック	第8章 『アダム・ビード』と『ヘンリー・エズモンド』—ホモソーシャルな欲望と女性の歴史性—	男同士の絆：イギリス文学とホモソーシャルな欲望	上原早苗、亀澤美由紀訳（第8章は上原早苗訳）、みすず書房、pp. 204-44, 346-48 (原注と訳注).
2002.10.09 (平成14年)	プルースト	「作家論断章」の中の「ジョージ・エリオットについて」	プルースト評論選Ⅰ：文学編	保苺瑞穂訳、筑摩書房、ちくま文庫、pp. 345-47; 『プルースト全集 15：文芸評論/創作の周辺/美術・社会・音楽時評/社交・肖像/書評・アンケート回答/初期作品』（筑摩書房、1986. 11. 20）収録の作品を再編集し改訂を施したもの
2003.03.30 (平成15年)	バーバラ・ハーディ	翻訳 ジョージ・エリオットの小説(1)	英文学	第32号、高野秀夫訳、駒澤短期大学英文科、pp. 93-104.
2003.05.20	ヒリス・ミラー	「第二章 キャラクター」の中の「ジョージ・エリオット」	アリアドネの糸—物語の線	吉田幸子・室町小百合監訳、太田純・兼中裕美・杉村寛子・林千恵子訳・伊藤雅子解説、英宝社、pp. 113-16; 他にpp. 47, 101, 149, 150-51, 153, 155, 156, 157-58, 301でもエリオットに言及
2003.09.30	E. A. マッコブ	『フロス河畔の水車小屋』に与えたケラーの影響：再評価	渡辺千枝子著『ジョージ・エリオットとドイツ文学・哲学』	渡辺千枝子訳、創英社/三省堂書店、pp. 73-92.
2003.12.05	ピーター・ブルックス著、高田茂樹訳	「第八章 話す肉体、もろい器」の中の「これらのもろい器」	肉体作品：近代の語りにおける欲望の対象	新曜社、pp. 340-57; 他にpp. 275, 304, 308, 309-10, 338, 388, 436n(23), 436-37n(16), 437n(31)においてもエリオットに言及
2004.03.31 (平成16年)	バーバラ・ハーディ	ジョージ・エリオットの小説(2)	英文学	第33号、高野秀夫訳、駒澤短期大学英文科、pp. 137-53.

2005.01.23 (平成17年)	ジェニ ファー・ア グロウ編纂	エリオット ジョージ (本名: マリー・アン・エヴァンズ)	マクミラン版 世界女性 人名大辞典	竹村和子 日本語版監修、 国書刊行会、pp. 78-79.
2005.02.20	メリン・ ウィリアム ズ	10 ジョージ・エリオット	女性たちのイギリス小説	鮎澤乗光、原公章、大平栄 子訳、南雲堂、pp. 239-67.
2005.03.25	バーバラ・ ハーディ	ジョージ・エリオットの小説 (3)	英文学	第34号、高野秀夫訳、駒澤 短期大学英文科、 pp. 9-20.
2006.03.31 (平成18年)	バーバラ・ ハーディ	ジョージ・エリオットの小説 (4)	英文学	第35号、高野秀夫訳、駒澤 短期大学英文科、 pp. 23-34.
2007.09.20 (平成19 年)	エドワー ド・ソレル 画と文 (藤 岡啓介訳)	ジョージ・エリオット	文豪の真実	マール社、pp. 149-68.
2007.09.30	バーバラ・ ハーディ	ジョージ・エリオットの小説 (5)	外国語論集	第3号、高野秀夫訳、駒澤 大学総合教育研究部外国語 第1・第2部門、pp. 99- 110.
2007.11.22	ジェイコ ブ・コール グ	「第二十二章 ヒューマニズム—時代からの亡命」の中 の「第三節 ジョージ・エリオットの影響」	松岡光治編『ギッシング を通して見る後期ヴィク トリア朝の社会と文化』	溪水社、矢次 綾訳、pp. 403-19; 第四節にもエリ オットへの言及あり (p. 416)
2009.03.30 (平成21年)	Barbara Hardy (高 野秀夫訳)	ジョージ・エリオットの小説 (6)	外国語論集	第6号、駒澤大学総合教育 研究部外国語第1・第2部 門、pp. 305-22.
2010.01.10	ジュリエッ ト・マクマ スター (奥村真紀 訳)	第11章 お手本を選んで—ジョージ・エリオットの 習作時代	クリスティーン・アレグ ザンダー、ジュリエッ ト・マクマスター編著 『子どもが描く世界— オースティンからウルフ まで』、芦澤久江、杉村 藍監訳	彩流社、pp. 315-32; 他に pp. ii, 14, 20-21, 22, 27, 38, 46, 148, 414においてもエリ オットに言及
2010.07.20 (平成22 年)	ジョナ・ レーラー (鈴木 晶 訳)	第2章 ジョージ・エリオット—自由の生物学	ブルーストの記憶、セザ ンヌの眼—脳科学を先取 りした芸術家たち	白揚社、pp. 47-84; 他にpp. 8, 10においてもエリオット に言及
2010.09.30	Barbara Hardy (高 野秀夫訳)	ジョージ・エリオットの小説 (7)	外国語論集	第9号、駒澤大学総合教育 研究部外国語第1・第2部 門、pp. 183-207.

2011.03.01 (平成23年)	アナ・K・ナード (辻裕子、森道子、村山晴穂監訳)	序章、第一部 ミルトンについて語られた物語とエリオット、第二章 ジョン・ミルトン—恋慕のまなざしの対象と「役に立つ」娘たちの父—第三章 ミルトンとロモラの父親たち、第四章 ミルトンとドロシアたち、第二部 ミルトンが語った物語とエリオット、第五章 『ミドルマーチ』においてミルトンの方法を吟味する、第六章 『アダム・ビード』におけるエリオットのミルトンに対する異議申し立て、第七章 わが心の自由—マギーの試練と『コウマス』のレディー—第八章 「より広いビジョン」—『フィーリクス・ホルト』とサムソンとエスタの物語—、第九章 「人類の大恩人、解放者たち」—『ダニエル・デロンダ』における『復樂園』—第十章 結論—マギーとメアリアンとジョージ、および彼女たちの書物—	ミルトンと対話する ジョージ・エリオット	英宝社、ii pp. +498 pp.
2011.03.30	Barbara Hardy (高野秀夫訳)	ジョージ・エリオットの小説 (8)	外国語論集	第10号、駒澤大学総合教育研究部外国語第1・第2部門、pp. 241-66.
2011.03.30	Barbara Hardy (高野秀夫訳)	ジョージ・エリオットの小説 (9)	駒澤大学総合教育研究部紀要	第5号、駒澤大学、pp. 105-28.
2012.03.01	Barbara Hardy (高野秀夫訳)	ジョージ・エリオットの小説 (10)	外国語論集	第12号、駒澤大学総合教育研究部外国語第1・第2部門、pp. 113-40.
2013.03.01 (平成25年)	バーバラ・ハーディ著 (高野秀夫訳)	ジョージ・エリオットの小説 (11)	外国語論集	第14号、駒澤大学、pp. 151-60.
2013.03.30	アンドルー・サンダーズ著、森道子・米本弘一・稲積包昭訳	第八章 「ロモラの目覚め」—ジョージ・エリオットの歴史小説	ヴィクトリア朝の歴史小説	英宝社、pp. 243-82.
2013.05.25	ティム・ドリン著、野由美子訳	日本語版への序文、第一章 反逆者/女予言者—ジョージ・エリオットの生涯、第二章 社会構造、第三章 文学的・文化的コンテキスト、第四章 エリオットと社会・政治問題、第五章 エリオットと女性問題、第六章 エリオットと宗教、第七章 エリオットとヴィクトリア朝時代の科学、第八章 ジョージ・エリオットを再コンテキスト化する、「注」、「ジョージ・エリオット年表」、「図版一覧」、「参考文献」、「あとがき」、「索引」	ジョージ・エリオット (時代のなかの作家たち 5)	彩流社、433 pp. + xvi pp.
2014.03.01 (平成26年)	バーバラ・ハーディ著 (高野秀夫訳)	ジョージ・エリオットの小説 (12)	外国語論集	第14号、駒澤大学総合教育研究部外国語第1・第2部門、pp. 217-34.
2014.05.30	ナンシー・ヘンリー著、内田能嗣・小野ゆき子・会田瑞枝訳	「まえがき」、「謝辞」、「略記法」、「第一章 生涯」、「第二章 歴史的な流れ」、「第三章 文学上の影響」、「第四章 作品論」、「第五章 後世」、「訳者あとがき」、「原注」、「参考文献」、「索引」	評伝—ジョージ・エリオット	英宝社、viii + 251 pp.

2017.01.25 (平成29年)	デイヴィッド・ブルックス著、夏目 大訳	第7章 愛 — ジョージ・エリオット	あなたの人生の意味 — 先人に学ぶ「惜しまれる生き方」	早川書房、pp. 266-320.
2021.01.10 (令和3年)	エレイン・ショウォルター著、 [日本看護協会出版会編集部訳]	フローレンス・ナイチンゲールが抱いたフェミニストとしての不満：女性、宗教、そして『思索への示唆』	フローレンス・ナイチンゲール著、木村正子訳、 『カサンドラ：ヴィクトリア朝の理想的女性像への反逆』所収論文	ナイチンゲール生誕200年記念出版、日本看護協会出版会、pp. 127-173；エリオットへの言及はpp. 148, 149n18, 154, 157-58, 157n34, 159n12.
2021.05.	レベッカ・パクストン、リサ・ホワイティング編、向井和美訳	ジョージ・エリオット (メアリー・アン・エヴァンズ) George Eliot (Mary Anne Evans) 1819～1880年	哲学の女王たち: もうひとつの思想史入門	晶文社、pp. 87-96；他にpp. 18 (肖像画), 225, 243でもエリオットに言及

(7)注釈書、注付き教科書関係				
発行年月日	注釈者名等	タイトル	書名	発行所、頁等
2000.01.20 (平成12年)	畠山智美	"Brother and Sister," II	武田雅子・下村伸子・畠山智美 編註『ロマン派英米女性詩人選集』	英宝社、pp. 68-69
2011.12.20 (平成23年)	清宮倫子、清宮協子編著	19 ジョージ・エリオット George Eliot <i>Middlemarch</i> (1871-72)	よくわかるイギリスの文学	南雲堂、pp. 42-43.
2017.12.01 (平成29年)	George Eliot 著、池園宏・西山史子・藤原知予編注		<i>Silas Marner: The Weaver of Raveloe</i>	大阪教育図書、102 pp.

(8)その他 (ニューズレター、書誌等)				
発行年月日	著者名	タイトル	雑誌・学会誌名	発行所、頁等
2000.06. (平成12年)	Kathleen Adams	Our Warm Greetings to the Japanese Fellowship	George Eliot Newsletter of Japan	第4号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 1.
2000.06.	福永信哲	ジョージ・エリオット誕生祝い午餐会に出席して	George Eliot Newsletter of Japan	第4号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.
2000.06	近藤眞理子	ジョージ・エリオットと『母』なるもの	George Eliot Newsletter of Japan	第4号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 3.
2000.06.	岸本京子	日本ジョージ・エリオット協会第3回全国大会報告記	George Eliot Newsletter of Japan	第4号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 4.
2000.06.	内田能嗣、富田成子撮影	George Eliot—写真によるゆかりの場探訪 (Arbury Farm [現South Farm], Arbury Hall)	George Eliot Newsletter of Japan	第4号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 5.

2001.06. (平成13年)	Rosemary Ashton	George Eliot and the Carlyles	George Eliot Newsletter of Japan	第5号、日本ジョージ・エ リオット協会、 p. 1.
2001.06.	富士川和男	ジョージ・エリオットと私	George Eliot Newsletter of Japan	第5号、日本ジョージ・エ リオット協会、 p. 2.
2001.06.	中島正太	映像でみるジョージ・エリオットの世界	George Eliot Newsletter of Japan	第5号、日本ジョージ・エ リオット協会、 p. 3.
2001.06.	小野ゆき子	日本ジョージ・エリオット協会第4回全国大会報告記	George Eliot Newsletter of Japan	第5号、日本ジョージ・エ リオット協会、 p. 4.
2001.06.	平井雅子	日本ジョージ・エリオット協会第4回全国大会シンポジ ウム：ジョージ・エリオットの芸術と〈読み〉— <i>Daniel Deronda</i> を中心に	George Eliot Newsletter of Japan	第5号、日本ジョージ・エ リオット協会、 p. 5.
2001.06.	福永信哲、 山本紀美子 撮影	George Eliot—写真によるゆかりの場探訪 (Griff House、 Chilvers Coton Church)	George Eliot Newsletter of Japan	第5号、日本ジョージ・エ リオット協会、 p. 6.
2002.06. (平成14年)	鮎澤乗光	ジョージ・エリオットの視覚 (絵画的、映画の) 技法	George Eliot Newsletter of Japan	第6号、日本ジョージ・エ リオット協会、 p. 1.
2002.06.	藤井元子	ジョージ・エリオットと私	George Eliot Newsletter of Japan	第6号、日本ジョージ・エ リオット協会、 p. 2.
2002.06	廣野由美子	ルーレットをする女—グェンドレン・ハーレスとベッ キー・シャープ—	George Eliot Newsletter of Japan	第6号、日本ジョージ・エ リオット協会、 p. 3.
2002.06.	西山史子	日本ジョージ・エリオット協会第5回全国大会報告記	George Eliot Newsletter of Japan	第6号、日本ジョージ・エ リオット協会、 p. 4.
2002.06.	都留信夫	シンポジウム『 <i>Silas Marner</i> の諸相』概要	George Eliot Newsletter of Japan	第6号、日本ジョージ・エ リオット協会、 p. 5.
2002.06	前田淑江撮 影	George Eliot—写真によるゆかりの場探訪 (Arbury Hall の library [Marghanita Laski, <i>George Eliot and Her World</i> , p. 19]; Franklin 姉妹の寄宿学校 [前田淑江撮影])	George Eliot Newsletter of Japan	第6号、日本ジョージ・エ リオット協会、 p. 6.
2002.11.22	文献委員	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの 文献 (2000年1月～2002年6月)	ジョージ・エリオット研 究	第四号、日本ジョージ・エ リオット協会、 pp. 71-82.
2003.06. (平成15年)	川本静子	生きつづけるジョージ・エリオット	George Eliot Newsletter of Japan	第7号、日本ジョージ・エ リオット協会、 p. 1.

2003.06.	大嶋浩	ジョージ・エリオットと私—ゴッホとエリオットの関係をめぐって—	George Eliot Newsletter of Japan	第7号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.
2003.06.	泉 忠司	『フロス河畔の水車場』の不思議な池をめぐって	George Eliot Newsletter of Japan	第7号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 3.
2003.06.	運営委員 清水伊津代	日本ジョージ・エリオット協会第6回全国大会報告記	George Eliot Newsletter of Japan	第7号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 4.
2003.06.	福永信哲	第6回シンポジウム：『 <i>Felix Holt, the Radical</i> を読む—はざまの時代の横断面—』概要	George Eliot Newsletter of Japan	第7号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 5.
2003.06.	前田淑江撮影	George Eliot—写真によるゆかりの場探訪（Bird Grove: Folehill [現在はGeorge Eliot Road], Coventry [前田淑江撮影]; Coventry の郊外, Radford Road にあったCharles Brayの家, Rosehill [Marghanita Laski, <i>George Eliot and Her World</i> , p. 24掲載]	George Eliot Newsletter of Japan	第7号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 6.
2003.11.22	文献委員	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの文献（2002年7月～2003年6月; 2000年1月～2002年6月の補遺・訂正）	ジョージ・エリオット研究	第五号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 53-58.
2004.06. (平成16年)	内田能嗣	George Eliot Country再訪	George Eliot Newsletter of Japan	第8号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 1.
2004.06.	前田淑江	ジョージ・エリオットと私	George Eliot Newsletter of Japan	第8号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.
2004.06.	大竹麻衣子	ジョージ・エリオットとシャーロット・ブロンテ：「骨相学」をめぐって	George Eliot Newsletter of Japan	第8号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 3.
2004.06.	運営委員 阿部美恵	日本ジョージ・エリオット協会第7回全国大会報告記	George Eliot Newsletter of Japan	第8号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 4.
2004.06.	植松みどり	日本ジョージ・エリオット協会第7回シンポジウム	George Eliot Newsletter of Japan	第8号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 5.
2004.06.		George Eliot—写真によるゆかりの場探訪（Coventry時代、Mary Ann が父、Robert Evansと通ったHoly Trinity Church。[絵葉書提供 川本静子]; 1847年に描かれたCoventry の町の水彩画。[Rosemary Ashton, <i>George Eliot: A Life</i> に掲載]	George Eliot Newsletter of Japan	第8号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 6.
2004.11.22	文献委員	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの文献（2003年7月～2004年6月; 2000年1月～2003年6月の補遺・訂正）	ジョージ・エリオット研究	第六号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 71-79.

2005.06. (平成17年)	出淵敬子	Ray Stracheyの見たGeorge Eliot	George Eliot Newsletter of Japan	日本ジョージ・エリオット協会、 p. 1.
2005.06.	福永信哲	ジョージ・エリオットと私—作家の原点としての聖書批評—	George Eliot Newsletter of Japan	日本ジョージ・エリオット協会、 p. 2.
2005.06.	村山晴徳	ジョージ・エリオット研究国際会議報告記	George Eliot Newsletter of Japan	日本ジョージ・エリオット協会、 p. 3.
2005.06.	運営委員 谷田恵司	日本ジョージ・エリオット協会第8回全国大会報告記	George Eliot Newsletter of Japan	日本ジョージ・エリオット協会、 p. 4.
2005.06.	荻野昌利	日本ジョージ・エリオット協会第8回シンポジウム	George Eliot Newsletter of Japan	日本ジョージ・エリオット協会、 p. 5.
2005.06.		George Eliot—写真によるゆかりの場探訪 (London, StrandのもととJohn Chapman 邸 [写真右から2番目]。[原公章撮影] ; Franz Liszt邸。[絵葉書提供、植松みどり])	George Eliot Newsletter of Japan	第9号、日本ジョージ・エリオット協会、 p. 6.
2005.11.22	文献委員	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの文献 (2004年7月～2005年6月; 2000年1月～2004年6月の補遺・訂正)	ジョージ・エリオット研究	第七号、日本ジョージ・エリオット協会、 pp. 75-81.
2006.06. (平成18年)	内田能嗣	アダムズ夫妻のことなど	George Eliot Newsletter of Japan	第10号、日本ジョージ・エリオット協会、 p. 1.
2006.06.	手塚リリ子	ジョージ・エリオットと私—その音楽の世界—	George Eliot Newsletter of Japan	第10号、日本ジョージ・エリオット協会、 p. 2.
2006.06.	会田瑞枝	スペイン アンダルシア地方を訪ねて	George Eliot Newsletter of Japan	第10号、日本ジョージ・エリオット協会、 p. 3.
2006.06.	運営委員 中村祐子	日本ジョージ・エリオット協会第9回全国大会報告記	George Eliot Newsletter of Japan	第10号、日本ジョージ・エリオット協会、 p. 4.
2006.06.	富田成子	日本ジョージ・エリオット協会第9回シンポジウム：「ジョージ・エリオットと評論活動」	George Eliot Newsletter of Japan	第10号、日本ジョージ・エリオット協会、 p. 5.
2006.06.		George Eliot—写真によるゆかりの場探訪 (1849年ジュネーブでG・エリオット[29歳]が住んだ家の写真。[佐野弘子氏撮影・提供] ; 142 Strand [玄関]、J. Chapmanの出版社と住居の写真。[原公章撮影])	George Eliot Newsletter of Japan	第10号、日本ジョージ・エリオット協会、 p. 6.
2006.11.22	文献委員	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの文献 (2005年7月～2006年6月; 2000年1月～2005年6月の補遺・訂正)	ジョージ・エリオット研究	第八号、日本ジョージ・エリオット協会、 pp. 71-76.

2007.05.01 (平成19年)	富士川義之	現代イギリス小説とヴィクトリア朝	The Victorian Studies Society of Japan	Newsletter No. 6, p. 1 ; 『ミドルマーチ』に言及
2007.06.	荻野昌利	エリオットとアーノルドと"culture"	George Eliot Newsletter of Japan	第11号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 1.
2007.06.	廣野由美子	ジョージ・エリオットと私	George Eliot Newsletter of Japan	第11号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.
2007.06.	渡辺千枝子	ジョージ・エリオットとオランダ絵画とゲーテ『親和力』	George Eliot Newsletter of Japan	第11号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 3-4.
2007.06.	渡 千鶴子	日本ジョージ・エリオット協会第10回全国大会報告記	George Eliot Newsletter of Japan	第11号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 4-5.
2007.06.	原 公章	日本ジョージ・エリオット協会第10回シンポジウム：「ジョージ・エリオットと現代批評」	George Eliot Newsletter of Japan	第11号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 5-6.
2007.11.22	文献委員	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの文献（2006年7月～2007年6月；2000年1月～2006年6月の補遺・訂正）	ジョージ・エリオット研究	第九号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 69-76.
2008.05.01 (平成20年)	大田美和	現代に生きるテキスト	The Victorian Studies Society of Japan	Newslwtter No. 7, 日本ヴィクトリア朝文化研究学会、p. 4; 『ミドルマーチ』に言及
2008.06.	富士川和男	あまりにも知的な—ジョージ・エリオット素描	George Eliot Newsletter of Japan	第12号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 1.
2008.06.	富山太佳夫	同じ名前	George Eliot Newsletter of Japan	第12号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-2.
2008.06.	西山史子	ジョージ・エリオットと私	George Eliot Newsletter of Japan	第12号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 2-3.
2008.06.	大竹 麻衣子	日本ジョージ・エリオット協会第11回全国大会報告記	George Eliot Newsletter of Japan	第12号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 3-4.
2008.06.	天野みゆき、会田瑞枝、谷田恵司、向井秀忠	日本ジョージ・エリオット協会第11回全国大会シンポジウム 「『スペインのジプシー』を読む」	George Eliot Newsletter of Japan	第12号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 4-6.
2008.11.22	文献委員	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの文献（2007年7月～2008年6月；2000年1月～2007年6月の補遺・訂正）	ジョージ・エリオット研究	第十号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 81-85.
2009.03.10 (平成21年)	馬淵恵里	Middlemarchにおける「女性版教養小説」再構築	第81回大会資料	日本英文学会、p. 32.
2009.06.	Elizabeth Mellor	THE GEORGE ELIOT FELLOWSHIP: TO THE JAPANESE BRANCH)	George Eliot Newsletter of Japan	第13号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-2.
2009.06.	都留信夫	『嵐が丘』か『ミドルマーチ』か	George Eliot Newsletter of Japan	第13号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 2-3.



2009.06.	大嶋 浩	ジョージ・エリオットの書誌を作成して	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第13号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 3-4.
2009.06.	可児百合子	ジョージ・エリオットと私	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第13号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 4.
2009.06.	太田美和	日本ジョージ・エリオット協会第12回全国大会報告記	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第13号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 5.
2009.06.	廣野由美子、池園宏、新野緑、泉 忠司	日本ジョージ・エリオット協会第12回全国大会シンポジウム 「短編小説家としてのジョージ・エリオット	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第13号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 5
2009.11.28	文献委員	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの文献（2008年7月～2009年6月；2000年1月～2008年6月の補遺・訂正）	ジョージ・エリオット研究	第十一号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 61-65.
2010.06. (平成22年)	John Rignall	The Two Eliots	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第14号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-2.
2010.06.	John Burton	REVIEW OF 2009	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第14号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 2-3.
2010.06.	倉田賢一	エリオットと欲望の弁証法	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第14号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 3-4.
2010.06.	永井容子	日本ジョージ・エリオット協会第13回全国大会報告記	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第14号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 4-5.
2010.06.	福永信哲	日本ジョージ・エリオット協会第13回全国大会シンポジウム 「ジョージ・エリオットとキリスト教」	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第14号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 5-6.
2010.06.	内田能嗣	ジョージ・エリオット全集を御霊前に	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第14号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 6.
2010.06.	原 公章	追悼・川本静子先生	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第14号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 7.
2010.06.	出淵敬子	川本静子先生を偲んで	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第14号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 7.
2010.06.	植松みどり	川本静子先生の思い出	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第14号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 7.
2010.06.		川本静子先生の略歴とご著書（翻訳を含む）	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第14号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 7-8.
2010.11.26	文献委員	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの文献（2009年7月～2010年6月；2000年1月～2009年6月の補遺・訂正）	ジョージ・エリオット研究	第十二号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 51-58.
2010.12.12.		エリオット（ジョージ）編	川戸道昭・榊原貴教編著 『世界文学総合目録』 第1巻：イギリス編① (あ～し)	大空社、pp. 171-80.
2011.06. (平成23年)	原 公章	自然災害と言葉の役割	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第15号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-2.

2011.06.	内田能嗣	ジョージ・エリオット全集を御霊前に	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第15号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.
2011.06.	原 公章	追悼・川本静子先生	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第15号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.
2011.06.	出淵敬子	川本静子先生を偲んで	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第15号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.
2011.06.	植松みどり	川本静子先生の思い出	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第15号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.
2011.06.		川本静子先生の略歴とご著書（翻訳を含む）	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第15号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.
2011.06.	天野みゆき	漱石とエリオット	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第15号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.
2011.06.	高野秀夫	ジョージ・エリオットと私	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第15号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 2-3.
2011.06.	大野直美	日本ジョージ・エリオット協会第14回全国大会報告記	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第15号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 4-5.
2011.06.	John Burton	東日本大震災へのお見舞い	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第15号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 7.
2011.10.01	斉藤健太郎	アン・ブロンテとジョージ・エリオット	<i>Brontë Newsletter of Japan</i>	第83号、日本ブロンテ協会、p. 5.
2011.10.01	早瀬和栄	2011年度日本ブロンテ協会公開講座報告	<i>Brontë Newsletter of Japan</i>	第83号、日本ブロンテ協会、p. 4；ルイスとエリオットに言及
2011.11.26	文献委員	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの文献（2010年7月～2011年6月；2000年1月～2010年6月の補遺・訂正）	ジョージ・エリオット研究	第十三号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 61-66.
2012.06. (平成24年)	津田聖子	エリオットとわたしーご挨拶を兼ねて	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第16号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 1.
2012.06.	富田成子	『ジョージ・エリオット書簡集』	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第16号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.
2012.06.	斉藤健太郎	ジョージ・エリオットとブロンテ姉妹	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第16号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 2-3.
2012.06.	会田瑞枝	日本ジョージ・エリオット協会第15回全国大会報告記	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第16号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 3-4.
2012.06.	寺西雅之	日本ジョージ・エリオット協会第15回大会シンポジウム「ジョージ・エリオットとポリフォニー」	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第16号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 4-5.
2012.11.22	文献委員	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの文献（2011年7月～2012年6月；2000年1月～2011年6月の補遺・訂正）	ジョージ・エリオット研究	第十四号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 83-88.
2013.06. (平成25年)	玉井 暉	ジョージ・エリオットとジョン・ラスキン	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第17号、日本ジョージ・エリオット協会、pp 1-2.

2013.06.	今泉瑞枝	ジョージ・エリオットと私	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第17号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.
2013.06.	矢野奈々	ジョージ・エリオットの小説における「ダーク・ヒロイン」たち — 「家庭の天使」からの逸脱と「女性らしさ」の追求 — (博士論文)	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第17号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 3.
2013.06.	阿部美恵	ジョージ・エリオットのカントリーを訪ねる旅	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第17号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 4.
2013.06.	福永信哲	Griff House 離れ家の改修計画について	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第17号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 5.
2013.06.	堀 紳介	日本ジョージ・エリオット協会第16回大会報告記	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第17号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 5-7.
2013.06.	永井容子	日本ジョージ・エリオット協会第16回大会シンポジウム「George EliotとGeorge Henry Lewes」	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第17号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 7-8.
2013.06.	原 公章	事務局の十年間を振り返って — 謝辞に換えて	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第17号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 11.
2013.11.11	文献委員	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの文献（2012年7月～2013年6月；2000年1月～2012年6月の補遺・訂正）	ジョージ・エリオット研究	第十五号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 69-74.
2014.06. (平成26年)	植松みどり	叡智の言葉を手がかりに	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第18号、日本ジョージ・エリオット協会、pp 1-2.
2014.06.	松本三枝子	ジョージ・エリオットと私	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第18号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 2-3.
2014.06.	能勢規子	ミュージカル「サイラス・マーナー」の公演を終えて	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第18号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 3-4.
2014.06.		図版(写真)：「虹屋に集う男たち」、「私の金貨!」、「エピソードの結婚式」、「献花」	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第18号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 4-6.
2014.06.	大田美和	ミュージカル「サイラス・マーナー」を見て	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第18号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 6-7.
2014.06.	谷 綾子	日本ジョージ・エリオット協会第17回大会報告記	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第18号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 7-8.
2014.06.	阿部美恵	日本ジョージ・エリオット協会第17回大会シンポジウム「ジョージ・エリオットと19世紀女性作家」	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第18号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 9-10.
2014.11.11 (平成26年)	文献委員	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの文献（2013年7月～2014年8月；2000年1月～2013年6月の補遺・訂正）	ジョージ・エリオット研究	第十六号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 85-89.
2015.06. (平成27年)	廣野由美子	ジョージ・エリオットの「生きる意味」とは — ロゴセラピーの観点から	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第19号、日本ジョージ・エリオット協会、pp 1-2.
2015.06.	大野直美	“Brother Jacob”（「ジェイコブ兄貴」）翻訳を終えて	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第19号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.

2015.06.	小林英里	日本ジョージ・エリオット協会 第18回大会報告記	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第19号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 2-4.
2015.06.	大田美和	日本ジョージ・エリオット協会 第18回大会シンポジウム「ジョージ・エリオットの詩を読む」	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第19号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 4-5.
2015.11.11	大嶋 浩	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの文献（2014年9月～2015年6月；2000年1月～2014年8月の補遺・訂正）	ジョージ・エリオット研究	第十七号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 53-61.
2016.06. (平成28年)	富田成子	ジョージ・エリオット作品と翻訳	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第20号、日本ジョージ・エリオット協会、pp 1-2.
2016.06.	兼中裕美	“glass globes” in Belvedereについて	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第20号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 2-3.
2016.06.	樋口陽子	ジュリエット・マクマスター教授談話会要旨	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第20号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 4-5.
2016.06.	佐藤エリ	日本ジョージ・エリオット協会 第19回大会報告記	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第20号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 5-6.
2016.06.	大嶋 浩	日本ジョージ・エリオット協会 第19回大会シンポジウム「『アダム・ビード』再読」	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第20号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 6-7.
2016.09.16	谷 綾子	<i>Middlemarch</i> における父への反逆：Casaubonの子供たち	第88回大会Proceedings	日本英文学会、pp. 227-28.
2016.11.09	大嶋 浩	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの文献（2015年7月～2016年6月；2000年1月～2015年6月の補遺・訂正）	ジョージ・エリオット研究	第十八号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 97-101.
2017.06. (平成29年)	海老根 宏	エリオットを豊かに読む	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第21号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-2.
2017.06.	石井昌子	ジョージ・エリオットと私	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第21号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 2-3.
2017.06.	木村正子	日本ジョージ・エリオット協会 第20回大会報告記	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第21号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 3-4.
2017.06.	久守和子	日本ジョージ・エリオット協会 第20回大会シンポジウム「『ロモラ』の新しい読みを求めて」	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第21号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 5-6.
2017.11.09	大嶋 浩	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの文献（2016年7月～2017年6月；2000年1月～2016年6月の補遺・訂正）	ジョージ・エリオット研究	第十九号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 105-12.
2018.03.10 (平成30年)	佐藤エリ	「視覚」・「想像力」・「言語」がつなぐもの：George Henry Lewes の議論を通してAdam Bedeを読む	第90回大会資料	日本英文学会、p. 34.
2018.04.01	塩谷清人	ハーディのこだわり	日本ハーディ協会ニュース	第83号、日本ハーディ協会、pp. 1-2；エリオットへの言及はp. 2.
2018.06.	原 公章	追悼—小野寺健先生、A Man of Good Sense	英文学会通信	第109号、日本大学英文学会、pp. 4-5.

2018.06.	福永信哲	日本ジョージ・エリオット協会の課題について	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第22号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-2.
2018.06.	永井容子	ジョージ・エリオットと私	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第22号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 2-3.
2018.06.	濱 奈々恵	日本ジョージ・エリオット協会 第21回大会報告記	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第22号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 3-4.
2018.06.	原 公章、 木村正子、 石井昌子、 矢野奈々	日本ジョージ・エリオット協会 第21回大会シンポジウム「ダーク・ヒロインースコット・ギヤスケル・エリオットー」	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第22号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 5-6.
2018.09.15	松本三枝子	<i>Daniel Deronda</i> と Benjamin Disraeli	2018年度 支部大会資料統合版	日本英文学会、pp. 47-48.
2018.09.15	佐藤エリ	自己を演じる—『ダニエル・デロンダ』におけるグウエェンドリンをめぐって—	2018年度 支部大会資料統合版	日本英文学会、p. 72.
2018.09.15	佐藤エリ	「視覚」・「想像力」・「言語」がつなぐもの：George Henry Lewes の議論を通して <i>Adam Bede</i> を読む	第90回大会 Proceedings	日本英文学会、pp. 49-50.
2018.12.01	大嶋 浩	書誌文献データ：日本におけるジョージ・エリオットの文献（2017年7月～2018年7月；2000年1月～2017年6月の補遺・訂正）	ジョージ・エリオット研究	第二十号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 87-90.
2019.06. (令和元年)	海老根 宏	原先生：お別れの言葉	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第23号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 1.
2019.06.	植松みどり	原公章先生との心残りなお約束のこと	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第23号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.
2019.06.	内田能嗣	誠実な先生	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第23号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.
2019.06.	福永信哲	原公章先生を偲んで	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第23号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 3-4.
2019.06.	永井容子	原公章先生を偲んで	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第23号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 3.
2019.06.	堀 紳介	原公章先生との思い出	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第23号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 3.
2019.06.	濱 奈々恵	日本ジョージ・エリオット協会 第22回大会報告記	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第23号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 3-4.
2019.06.	池園 宏	日本ジョージ・エリオット協会 第22回大会シンポジウム「『サイラス・マーナー』の授業研究」	<i>George Eliot Newsletter of Japan</i>	第23号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 4-5.

2019.11.22	John Burton	A Bicentenary Message from the Chairman (UK)	ジョージ・エリオット研究	第二十一号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-3.
2019.11.22	Shintetsu Fukunaga	Foreword	ジョージ・エリオット研究	第二十一号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 5-7.
2020.04.01 (令和2年)	堀 紳介	自然風景が示す共感の“sign” —Jane EyreとMaggie Tulliverの視覚的能力	Brontë Newsletter of Japan	第100号、日本ブロンテ協会、p. 3.
2020.06.30	窪田憲子	広がりゆくエリオットの世界	George Eliot Newsletter of Japan	第24号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-2.
2020.06.30	奥村真紀	George Eliot 2019: International Bicentenary Conference 報告	George Eliot Newsletter of Japan	第24号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 2-3.
2020.06.30	谷 綾子	日本ジョージ・エリオット協会 第23回全国大会報告記	George Eliot Newsletter of Japan	第24号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 3-4.
2020.06.30	富田成子	日本ジョージ・エリオット協会 第23回全国大会シンポジウム: ジョージ・エリオットと旅—‘Recollections’を読む	George Eliot Newsletter of Japan	第24号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 4.
2020.06.30	谷田恵司	‘The Lifted Veil’とジョージ・エリオットの旅	George Eliot Newsletter of Japan	第24号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 5.
2020.06.30	閑田朋子	イルフラクームでの体験と博物学	George Eliot Newsletter of Japan	第24号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 5.
2020.06.30	富田成子	‘Recollections of Italy 1860’とMiddlemarch (19-22章)	George Eliot Newsletter of Japan	第24号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 5.
2020.06.30	田村真奈美	イタリア—ジョージ・エリオットのグランド・ツアー	George Eliot Newsletter of Japan	第24号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 5.
2020.11.25 (令和2年)	大嶋 浩	日本におけるジョージ・エリオットの文献 (2018年8月～2020年7月; 2000年1月～2018年7月の補遺・訂正) .	ジョージ・エリオット研究	第二十二号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 57-65.
2021.06.01 (令和3年)	植松みどり	ジョージ・エリオットと私	George Eliot Newsletter of Japan	第25号、日本ジョージ・エリオット協会、pp. 1-2.
2021.06.01	(濱 奈々恵)	特別企画 「コロナ禍とわたし」	George Eliot Newsletter of Japan	第25号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.
2021.06.01	宇佐見太市	コロナ禍下の想念	George Eliot Newsletter of Japan	第25号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 2.
2021.06.01	海老根 宏	現代『デカメロン』	George Eliot Newsletter of Japan	第25号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 3.
2021.06.01	佐藤 エリ	心の中で旅をする	George Eliot Newsletter of Japan	第25号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 3.
2021.06.01	高野秀夫	新型コロナと私	George Eliot Newsletter of Japan	第25号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 3.
2021.06.01	谷 綾子	コロナ禍でのオンライン授業	George Eliot Newsletter of Japan	第25号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 3.

2021.06.01	富田成子	令和二年——コロナの春	George Eliot Newsletter of Japan	第25号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 3.
2021.06.01	濱 奈々恵	「リモート」を楽しむ	George Eliot Newsletter of Japan	第25号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 4.
2021.06.01	中島正太	コロナ禍と私	George Eliot Newsletter of Japan	第25号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 4.
2021.06.01	樋口陽子	2019 George Eliot Bicentenary Conference at University of Leicester	George Eliot Newsletter of Japan	第25号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 4.
2021.06.01	矢野 奈々	コロナとYouTube	George Eliot Newsletter of Japan	第25号、日本ジョージ・エリオット協会、p. 4.

\* 記載事項の間違い、遺漏等にお気づきの方は、文献委員（西山）までお知らせください。

（作成：日本ジョージ・エリオット協会文献委員）